

2025 年度 事業報告書

学校法人 白梅学園

目 次

[I]2025 年度理事長報告	1
[II]学校法人の概要	3
1. 基本情報	3
2. 建学の精神	3
3. 学校法人の沿革	4
4. 入学定員・学生・生徒・園児数	5
5. 収容定員充足率	5
6. 組織図	6
7. 教職員の概要（専任教職員数）	7
[III] 2025 年度各部門主要事業報告／中期的な計画（2 年目）の進捗・達成状況	8
1. 学園・法人事務局	9
2. 白梅学園大学・短期大学	17
3. 白梅学園高等学校	29
4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部	32
5. 白梅学園大学附属白梅幼稚園	37
[IV]財務の概要	47
[V]学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況 の概要	59
[VI]役員等の概要	60
1. 役員の概要	60
2. 理事選任機関の概要	62
3. 評議員の概要	62
4. 会計監査人の概要	64
その他の資料	65
1. 2025 年度理事会・評議員会の開催状況	65
2. 2025 年度進路状況	66

[I]2025 年度理事長報告

1. 白梅学園の「持続的存続・発展」に向けた取組み

(1) 中長期を見通した学園運営の推進（白梅学園グランドデザインの策定）

現下の財政状況に鑑み、2025 年 10 月の理事会において、2025 年度は学園全体で『入学・入園者数の確保』へ注力することとした。このため、白梅学園グランドデザイン策定に係る業務は、大学の学科改組の効果が確認できる 2028 年度に再開することとし、各部門の将来計画に関わる事項は、随時、当該部門と法人間で協議を行った。

(2) 学園財政構造の見直し

入学・入園者数の減少を受け、常勤理事会や夏季集中討議において、白梅学園が持続的に存続・発展するために必要な施策について継続的に論議を行った。教職員のモチベーションを維持するため、賞与や給与（本俸）の削減につながる措置はできるだけ控えることとしたが、加算給の一部停止、住宅手当の減額などの支出削減を実施した。2026 年度予算策定においては、入学・入園者数の見込みに基づく当年度の収入の範囲内で予算を編成し、期末における現預金を減らさない方針を堅持した。

(3) 教育水準の維持・発展

大学において、DGX 時代に対応する「子ども学」のアップデートを目的として、子ども学科と家族・地域支援学科の発展的な統合再編を決定し、2027 年度から新たな子ども学科としてスタートする。

地域との連携を強化するため、大学・短期大学では、小平市や国立市との連携事業を継続しつつ、地域課題型プロジェクトとして飯田市・府中市とも連携協定を締結した。

高大連携としては、大学・短期大学が農業高校・総合高校など 9 校との連携協定を新たに締結した。高校・清修は、東京女子大学との高大連携協定を締結し、津田塾大学、実践女子大学、日本女子大学とあわせて 4 女子大学との連携体制を構築した。

(4) 学園のより円滑な運営の推進

学園がより円滑に運営できるよう、2024 年度から実施している教学・経営協議会を、2025 年度も継続的に開催し、教学と経営が一体的に課題解決に取り組んだ。

また、2025 年 4 月から施行された改正私学法に基づき、理事・監事・評議員・会計監査人を選任するなど、理事会及び評議員会の適正な運営を行った。

2. 学園創立 80 周年記念事業の推進

(1) 教育・研究環境の整備

大学・短期大学新棟建築プロジェクトは計画見直しにより延期となったが、2024 年度に引き続き、既存棟の改修・環境整備を最優先で実施した。新棟のコンセプトであった「学生の居場所作り」に基づき、食堂及び図書館にコモンズを設置した。また、既存棟の長寿命化のため、A・B 棟の外壁塗装・防水工事をを行った。その他、2024 年度に実施した大学・短期大学のトイレ改修に続き、中学・高校のトイレ改修を完了した。

(2) 建学の精神の高揚

建学の精神涵養のため、白梅学園創立 80 周年記念事業の一環として、「杉原千畝 命のビザとヒューマニズム」と題した講演会を 4 月に実施した。

(理事長 井原 徹)

[Ⅱ]学校法人の概要

1. 基本情報

(2025年4月1日現在)

(1)法人の名称

学校法人白梅学園(大臣認可年月日 1953(昭和28)年12月15日)

(2)主たる事務所の住所

〒187-8570 東京都小平市小川町1丁目830番地

(3)設置する学校・学部・学科

①白梅学園大学

大学院 子ども学研究科

子ども学部 子ども学科

発達臨床学科(※1)

家族・地域支援学科

子ども心理学科(※2)

教育学科(※2)

②白梅学園短期大学

保育科

③白梅学園高等学校

④白梅学園清修中学校

⑤白梅学園大学附属白梅幼稚園

※1：2024年4月募集停止 ※2：2024年4月新設

2. 建学の精神

「人間を愛し、人間の価値を最高度を実現しようとするヒューマンイズムの理念」

本学園は、1942年、社会教育協会を立ち上げた小松謙助が、学園の初代学園長である穂積重遠とともに、現在の東京都文京区に設立した東京家庭学園に始まった。戦火に見舞われながらも今日まで教育活動を継続し、現在は大学、短期大学、高校、中学、幼稚園からなる総合的な学校法人となった。

本学園の建学の精神は「人間を愛し、人間の価値を最高度を実現しようとするヒューマンイズムの理念」にある。科学性・社会性・芸術性の3つの基礎の上にたって個人の価値を高めるとともに、各分野を通じて広く社会の幸福に建設的な社会人の育成を目指している。

3. 学校法人の沿革

1942(昭和17)年3月	東京家庭学園設立
1950(昭和25)年3月	白梅幼稚園設置
1953(昭和28)年4月	白梅保母学園を創立、厚生省より保母養成機関の指定
12月	学校法人白梅学園設置
1955(昭和30)年3月	白梅保母学園を白梅学園保育科と名称変更
1957(昭和32)年4月	白梅学園短期大学設置 保育科第1部、同第2部開設
1961(昭和36)年4月	心理技術科第1部、同第2部開設(平成元年 心理学科と名称変更)
	専攻科保育専攻第1部、同第2部開設
1964(昭和39)年4月	白梅学園高等学校設置
1966(昭和41)年4月	短期大学教養科開設
1987(昭和62)年4月	保育科第2部、心理技術科第2部、専攻科保育専攻第2部募集停止
	専攻科保育専攻第1部開設
1989(平成元)年4月	専攻科福祉専攻(介護福祉士養成施設)開設
1992(平成4)年4月	専攻科福祉専攻、学位授与の認定
1993(平成5)年4月	専攻科保育専攻、学位授与の認定
	保育科第2部、心理技術科第2部、専攻科保育専攻第2部の廃止
	保育科第1部を保育科、心理学科第1部を心理学科、専攻科保育専攻第1部を専攻科保育専攻と名称変更
1998(平成10)年3月	専攻科保育専攻1年課程廃止
4月	専攻科保育専攻2年課程開設
	福祉援助学科(介護福祉士養成施設)開設
2005(平成17)年4月	白梅学園大学子ども学部子ども学科設置
	短期大学教養科、専攻科保育専攻募集停止
2006(平成18)年3月	短期大学教養科、専攻科保育専攻廃止
4月	白梅学園清修中学校設置
2008(平成20)年4月	白梅学園大学大学院子ども学研究科子ども学専攻修士課程設置
2009(平成21)年3月	専攻科福祉専攻廃止
4月	白梅学園大学子ども学部発達臨床学科開設
	短期大学心理学科募集停止
2010(平成22)年4月	白梅学園大学子ども学部家族・地域支援学科開設
	白梅学園大学大学院子ども学研究科子ども学専攻博士課程開設
	白梅学園短期大学福祉援助学科募集停止
2011(平成23)年3月	白梅学園短期大学心理学科廃止
2012(平成24)年3月	白梅学園短期大学福祉援助学科廃止
2023(令和5)年4月	白梅幼稚園を白梅学園大学附属白梅幼稚園と名称変更
2024(令和6)年4月	白梅学園大学子ども学部子ども心理学科、教育学科開設
	白梅学園大学子ども学部発達臨床学科募集停止

4. 入学定員・学生・生徒・園児数

(2025 年 5 月 1 日現在)

白梅学園大学大学院

研究科・専攻科名	入学定員	入学者数	収容定員	1 年	2 年	3 年	計
子ども学研究科	修士課程	5	4	10	4	5	9
	博士課程	2	6	11	6	3	14
合 計	7	10	21	10	8	5	23

白梅学園大学

	学科名	入学定員	編入学定員	入学者数	収容定員	1 年	2 年	3 年	4 年	計
子ども学部	子ども学科	120	6	102	530	102	101	139	145	487
	発達臨床学科(※1)	—	10	—	120	—	1	51	47	99
	家族・地域支援学科	20	2	11	160	11	8	25	31	75
	子ども心理学科(※2)	40	2	45	80	45	32	—	—	77
	教育学科(※2)	50	2	35	100	35	23	—	—	58
合 計		230	22	193	990	193	165	215	223	796

白梅学園短期大学

学科科名	入学定員	入学者数	収容定員	1 年	2 年	計
保育科	80	46	160	46	68	114
合 計	80	46	160	46	68	114

白梅学園高等学校

	入学定員	入学者数	収容定員	1 年	2 年	3 年	計
白梅学園高等学校 (含 清修中高一貫部)	340	272	1,020	272	278	252	802
合 計	340	272	1,020	272	278	252	802

白梅学園清修中学校

	入学定員	入学者数	収容定員	1 年	2 年	3 年	計
白梅学園清修中学校	60	64	180	64	31	43	138
合 計	60	64	180	64	31	43	138

白梅学園大学附属白梅幼稚園

	入学定員	入学者数	収容定員	3 歳	4 歳	5 歳	計
白梅学園大学附属白梅幼稚園	70	32	210	32	39	46	117
合 計	70	32	210	32	39	46	117

5. 収容定員充足率

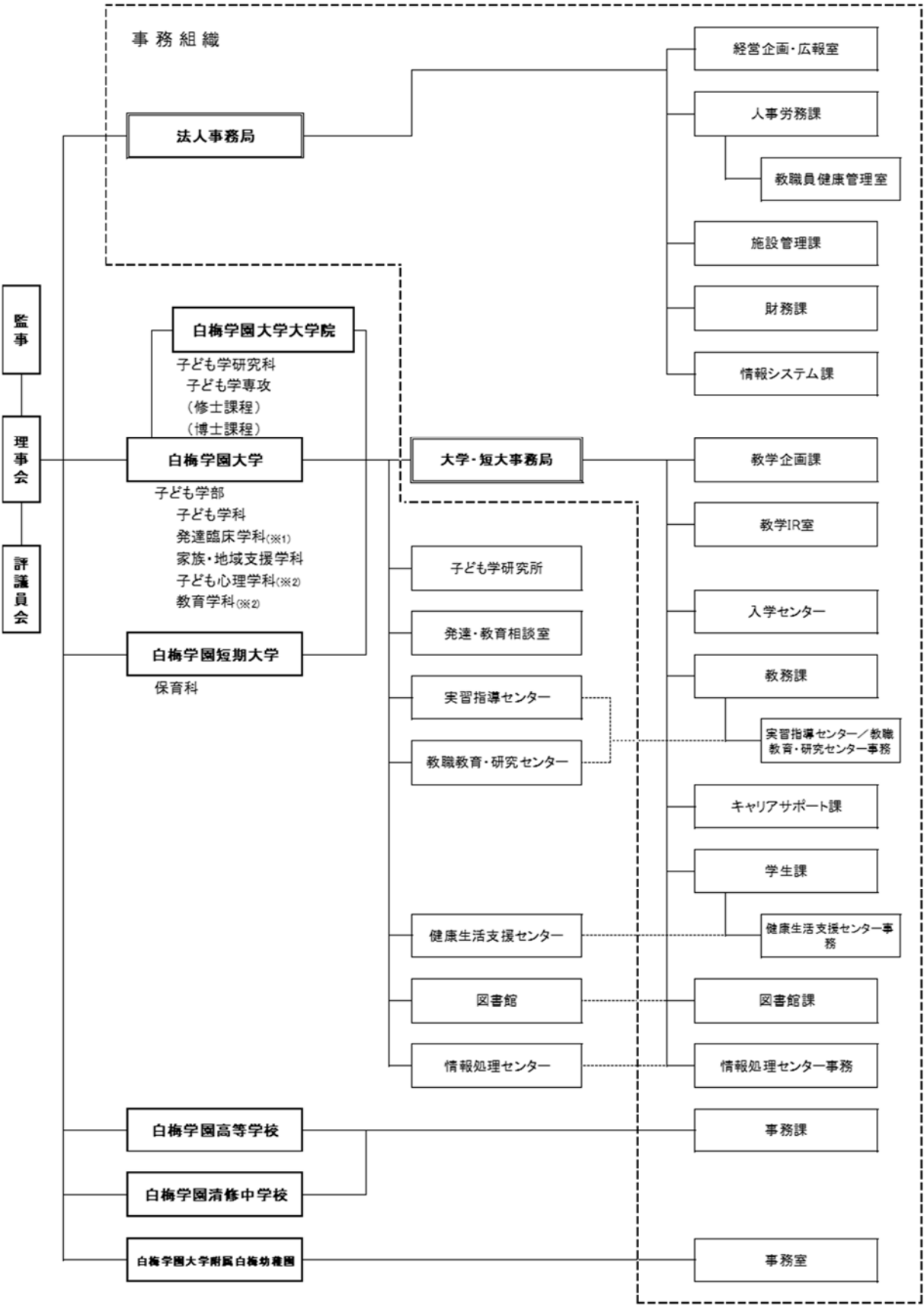
(毎年度 5 月 1 日現在)

(単位：%)

学校名	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
白梅学園大学大学院	67	67	37	44	110
白梅学園大学	102	100	96	83	80
白梅学園短期大学	103	95	89	86	71
白梅学園高等学校	85	86	85	82	79
白梅学園清修中学校	48	68	78	72	77
白梅学園大学附属白梅幼稚園	73	74	73	68	56

6. 組織図

(2025年4月1日現在)



7. 教職員の概要（専任教職員数）

職種	2024年度 (2024年4月1日)	2025年度 (2025年4月1日)	前年度 差	備考
大学教員	43	42	-1	大学院含む
短大教員	11	10	-1	
高校教諭	55	55	0	
中学校教諭	13	13	0	
幼稚園教諭	10	10	0	
事務職員	48	47	-1	
計	180	177	-3	

【Ⅲ】 2025 年度各部門主要事業報告／中期的な計画（2 年目）の進捗・達成状況

2025 年度事業計画は下記の 17 項目で策定した。この項目に基づき、部門別に関連する項目の主要事業について報告する。

【2025 年度事業計画 策定項目】

- [1]教育活動の推進
- [2]研究活動の推進
- [3]学生・生徒・園児支援の推進
- [4]学生・生徒・園児の確保
- [5]学園広報の推進
- [6]国際交流の推進
- [7]生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進
- [8]卒業生との連携等の推進
- [9]働き方・仕事の仕方の見直し
- [10]建学の精神の高揚
- [11]令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業
- [12]大学・短期大学新棟・施設中長期整備計画
- [13]財政再建計画
- [14]ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底
- [15]管理運営（施設改修・更新・労務他）
- [16]情報化教育/ICT
- [17]その他

1. 学園・法人事務局

2025 年度は、第 2 期中期実行計画の 2 年目であり、改正私学法が施行された初年度にあたる。引き続き、財政が厳しい状況にあることを踏まえ、白梅学園が教育・研究・社会貢献を継続的に実施できるよう、学園財政再建のための方策を検討した。

一方で、2024 年 2 月の理事会で承認された教育・研究環境の整備方針に基づき、既存施設・設備の改修を着実に進めた。

以下、主な施策の進捗について報告する。

(1) 学園グランドデザイン

当初計画していたグランドデザイン策定は、学園全体で『入学・入園者数の確保』へ注力するという経営判断に基づき、2025 年 10 月の理事会にて、大学学科改組の効果が確認できる 2028 年度に策定業務を再開する方針が決議された。本年度は当該業務を一時休止し、最優先課題の推進に切り替えて対応した。部門ごとに将来像に関わる課題は随時法人と協議を行った。

(2) 学園の財政改善策の検討・実施

財政見直し及び資金計画を随時更新し、常勤理事会や夏季集中討議において、白梅学園が持続的に存続・発展するために必要な施策について論議を行った。2025 年度後期から支出削減（加算給の一部停止、住宅手当の減額）を実施した。これらの支出削減は、教職員組合との協議を経て、2026 年度前期まで継続することとした。

年度当初から各学校の部門別収支の改善を目指して、2026 年度の入学・入園者数について必達目標値を確認した。結果的に、必達目標未達成のため、部門により相当な収入減が生じていることを踏まえ、2027 年度予算策定に向けては、人件費も含め、支出削減方策を集中的に検討することとした。

(3) 学園創立 80 周年記念事業

①教育・研究環境の整備

新棟建築プロジェクトは計画見直しにより延期となったが、2024 年度に引き続き、既存棟の改修・環境整備を最優先で実施した。A・B 棟の外壁塗装・防水工事、中高のトイレ改修を行った。また、学生の居場所として、食堂だけでなく図書館にもコモンズを設置することとし、年度内にほぼ完了した。新棟建築の延期をカバーし、既存施設・設備の改修により教育環境の維持・向上を図った。

②学園創立 80 周年記念事業募金

建学の精神涵養のため、白梅学園創立 80 周年記念事業の一環として、「杉原千畝 命のビザとヒューマニズム」と題した講演会を 4 月に実施した。

卒業生や在校生、保護者、教職員（OG・OB を含む）などからの、2025 年度の寄付金額は約 54 万円である。2025 年度末までの学園創立 80 周年記念事業募金の累計は約 1.2 億円となった。

（４）私学法改正対応

改正私学法に基づき、理事・監事・評議員の選任、理事会及び評議員会の適正な運営を行った。「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」について、2024年度の達成状況を2025年9月に理事会に報告し、公表した。2025年度は私立大学協会が策定した「日本私立大学協会 私立大学ガバナンス・コード＜第2.0版＞」を活用することを確認した。

内部統制システムに基づく業務運営については、他の業務を優先したため、十分な検討を行えなかった。

（５）事務体制・機能の見直し

理事からの助言、組合との折衝を経て、人事評価ではなく業務推進と職員の資質向上を目的とした「業務確認制度」として方針を決定し、2025年度は法人事務局長が設定した目標に基づき、各部課長が3月末までに次年度の目標を設定する段階まで完了した。2026年度4月以降は一般課員の目標設定を行い、制度の試行を拡充するとともに、本格実施に向けた改善点を検討する。

（法人事務局 事務局長 舟橋 徹）

【主要な事業の報告】

(学園・法人事務局)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「―」=評価不可

5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 情報の積極的な発信	・ 広報媒体の有効活用と機能の充実のため、ホームページを充実させ機能強化を図る。新しい広報媒体 (SNS 等) を積極的に活用する。	(1) ホームページのリニューアルを完了する。 (2) 大学・短大ホームページ改修プロジェクトにて、WEB 閲覧状況の分析・検証に基づき、ホームページの改修を完了する。	(1)A (2)S	(1) 大短図書館、情報処理センターホームページ移行について、業者に発注した。年度内にテストサイトの構築まで完了予定。 (2) 大学 Web サイトのリニューアルを実施し、情報の積極的な発信環境を構築した。リニューアル後の外部専門業者によるサイト診断では、本学の強みである『共感性』『独自性』において平均以上の高評価を獲得し、期待以上の成果を実証できた。
9. 働き方・仕事の仕方の見直し				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 事務体制・機能の強化	① 1 期に取り組んだ組織の見直しを継続し、誰もが活躍できる体制を構築する。特に業務に優先順位をつけて整理することによって時間を創出し、横断的に業務を行う余力のある組織を目指す。 ② 事務職員のさらなる質的向上を目指し、評価と改善の見える化を行い、情報収集、発信・提案ができる職員の育成を図る。 ③ 職員のモチベーションを向上させてより良い業務を行うために、働きやすい職場を目指し、労務課題を整理する。	(1) 「仕事評価」を試行し、事務職員の質の向上を図る。	(1)A (2)C	(1) 理事からの助言、組合との折衝を経て、人事評価ではなく業務推進と職員の資質向上を目的とした「業務確認制度」として方針を決定し、12 月の課長会にて周知した。今年度は法人事務局長が設定した目標を基に、各部課長が 3 月末までに次年度計画を策定する段階まで完了した。 (2) 「業務確認制度」の試行開始を優先させたため、2025 年度は「職員配置基準」「昇進・昇給基準」についての検討はできていない。
10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 記念講演の実施	(該当なし)	(1) 建学の精神涵養のため、白梅学園創立 80 周年記念事業の一環として、「杉原千畝の (と) ヒューマニズム (仮)」講演会を実施する。	(1)A	(1) 記念講演の運営は滞りなく完了した。3 月完了を目標としていた『他部門の感想等の取りまとめ』については、全学的なアンケート等の回収作業の負担に鑑み、当日の反応や事後の個別ヒアリング等の簡易的な手法へと切り替えた。そのため、改めての集計及び報告書の作成は行わなかった。

11. 令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業				
施策名	中期計画の全体像	2025年度(中期計画2年目)の達成目標	年間評価	2025年度(中期計画2年目)の達成状況(総括)
(1) 白梅学園創立80周年記念事業	①白梅学園創立80周年記念事業について、記念誌(学園史(補遺版))の編纂、寄付金(目標金額2億円)の募集、その他事業を学園全体で進める。新棟関連工事が完了後、記念式典を実施する。 ②建学の精神について、学園史編纂の中で改めて見つめなおし、全教職員で深め実践できる方法を模索する。新入職者への建学の精神の伝承等についても取り組む。	(1) 白梅学園創立80周年記念事業募金を継続実施する。 ①新棟建設に関する方針変更に伴い、あらためて卒業生や教職員OG・OB、企業、地域の方々等に対して、丁寧な説明を心掛けながら募金活動を行う。 ②実施事業の見直しに伴い、募金HP、募金パンフレットを修正する。 ③募金期間の中間にあたるため、寄付者等に対して、中間報告を行う。 (2) 建学の精神涵養のため、白梅学園創立80周年記念事業の一環として、「杉原千畝の(と)ヒューマニズム(仮)」講演会を実施する。	(1)B (2)A	(1)A・B棟の外壁塗装工事、トイレの洋式化、およびI棟学生食堂・E棟図書館のコモンズ化改修工事を完了させるなど、学生の教育環境整備を推進した。どの事業を創立80周年記念事業として位置づけるか等、事業全体の見直しと優先順位の精査を行っている。そのため、寄付者への中間報告および『募金パンフレット・趣意書』の再作成は一時保留とし、次年度へ持ち越すこととした。 (2)4月に実施した記念講演会は盛況のうちに終了し、記念事業の機運醸成に大きく貢献した。
(2) 白梅学園ランドデザインの策定	①経営及び教学の各ランドデザイン策定分科会にて検討した教学・経営ランドデザインの統合・調整を図り、白梅学園ランドデザインを策定する。策定後は、ホームページ等にて学内のみならず広く公表する。 ②長期にわたって信頼を得られるとともに、学園全体で一体感を感じられる学園ブランドイメージを育て、その浸透を図る。継続的な発信の仕組みを作るとともに、定着を図る	(1)各分科会からの最終報告に基づき、策定会議にて財政の見通しも踏まえつつ、教学ランドデザイン、経営ランドデザインの統合・調整を図る。白梅学園ランドデザイン策定後、ホームページ等にて公表する。	(1)-	(1)当初計画していたランドデザイン策定は、学園全体で『入学・入園者数の確保』へ注力するという経営判断に基づき、2025年10月の理事会にて一時休止が決議され、本年度は最優先課題の推進に切り替えて対応した。部門ごとに将来像に関わる課題は、随時、法人事務局と協議をおこなった。

12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画

施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)大学・短期大学新棟の建築 (2024 年度工事着工、2026 年度供用開始予定)	①大学・短期大学新棟については、学園の財政状況を踏まえつつ、施設のあり方について検討を重ね、2026 年度の供用開始に向けて着実に設計・工事を推進する。 ②既存棟の部分修繕、A・B 棟の解体、中庭の再整備を 2027 年度中に完了し、学生・生徒・園児にとって居心地の良い場所を確保する。合わせて高校・中学・幼稚園の教育環境整備も実施する。	現下の学園の財政状況を踏まえ、2024 年 2 月の理事会で承認された方針に基づき、既存棟の改修を優先して実施する。その際、在学生の学習環境の改善とともに、学生募集への影響も考慮し、以下の項目を実施・検討する。 (1)A 棟をより長く安全に利用するため老朽化の進行を防ぐとともに、美観を保つ目的から、外壁塗装や屋上防水、玄関の整備を行う。 (2)I 棟 3F 食堂を学生の居場所として利用できるようにラーニングコモンズ化を検討し、必要に応じて家具の入れ替えや改修を実施する。 (3)大学新学科設置に関する補助金に採択されたことを受け、新学科の構想を踏まえて、関連した校舎の改修について検討を行う。	(1)S (2)S (3)-	(1)新棟建築プロジェクトは計画見直しにより延期となったが、本年度は方針を転換し、既存棟の改修・環境整備を最優先で実施した。A・B 棟の外壁塗装・防水工事をはじめ、中高のトイレ改修を行った。 (2)学生の居場所として、食堂だけでなく図書館にもコモンズを設置することとした。大規模な改修であったが、スピード感を持って対応し、年度内にほぼ完了させた。新棟建築の延期をカバーし、既存施設・設備の改修により教育環境の維持・向上を図った。 (3)新学科構想の見直しに伴い、既存学科の再編となったため、関連した校舎の改修は実施していない。

13. 財政再建計画				
施策名	中期計画の全体像	2025年度(中期計画2年目)の達成目標	年間評価	2025年度(中期計画2年目)の達成状況(総括)
(1) 学園の財政構造の特徴を踏まえ、支出構造の見直しを図る。	・教育活動資金収支差額の安定確保(収支差額比率10%超)、及び基本金組入前当年度収支差額の黒字基調維持により、安定的な財政基盤が確立する。 ・大短新棟建築以降においても、将来に向けた着実な施設設備積立が実現する。 ・恒常的な経費削減策を実施するとともに、効率的・有効的な経費配分を行い、収支バランスを確保する。	(1) 2025年度以降の財政についていくつかの条件で試算したシミュレーションを基に、白梅学園が持続的に存続・発展するために必要な対応について引き続き検討する。 (2) 入学者数の減少に応じて、恒常的な収支バランスが確保できるように、2025年度の予算策定時に講じた対策に加え、さらに必要な財政改善策を作成する。 (3) 白梅学園グランドデザイン策定にあたり、財務面からの制約や施策についてとりまとめる。	(1)C (2)― (3)B	(1) 各部門の入学者数の見込みについて、2025年10月～2026年2月の常勤理事会にて確認した。支出削減策については協議は十分に行えなかった。 (2) グランドデザインの策定について、2028年度まで休止することを受け、資料作成についても休止した。 (3) 2026年度後期から支出削減(加算給の一部停止、住宅手当の減額)を実施した。これらの支出削減は、教職員組合との協議を経て、2026年度前期まで継続することとした。
(2) 学生納付金等収入の確保に向け、教学と連携して学生数等の増加策を検討する。	・学生納付金等収入の安定確保に向け、教学と連携した学生数等の増加策を実施し、収容定員充足を維持する。	「(1) 学園の財政構造の特徴を踏まえ、支出構造の見直しを図る。」と統一	―	「(1) 学園の財政構造の特徴を踏まえ、支出構造の見直しを図る。」と統一
(3) 収入の多元化を図り、資産運用とともに、補助金、寄付金等獲得の取組を強化する。	・補助金について、可能性のある経常的な補助金の安定的な確保に加え、特別補助、加算額等を確実に獲得する。 ・寄付金などの外部資金について、多様な収入源を確保するための方策を実施する。 ・資産運用について、学園の資金を安全かつ有利に運用し、その差益により教育研究の発展に資する。	(1) 80周年記念事業募金を継続的に実施する(募金室と連携)。 (2) 第一大体育館へのエアコン設置にあたり、補助金を活用する(施設管理課と連携)。 (3) ICT整備については東京都の補助金を活用する(情報システム課と連携)。 (4) 積立金や引当資産について整理し、目標金額を定めた運用について検討・実施する。	(1)B (2)A	(1) 新棟建築計画の中で予定していた機能の一部(大短講義室AV設備、大短コンピュータ教室、火災報知器、高圧受電設備の更新)については、財政状況を踏まえつつ、2026年度予算に組み入れた。大短講義室AV設備、大短コンピュータ教室の更新については、補助金を申請したが、不採択となった。 (2) 資金運用については、現状の整理を行った。
(4) 各部門の自立的運営を図るため、各部門における財政上及びその他の必要な対応を検討・実施する。	・各部門ごとの自立的運営について、財政面におけるガイドラインや各種基準をまとめる。 ・基準に満たない場合において、必要な対策を検討し、実施する。	(1) 緩やかな部門別収支均衡に向けて、各部門にて達成すべき入学者数と支出削減について検討する。 (2) 検討結果に基づき、各部門と協議する。	―	「(1) 学園の財政構造の特徴を踏まえ、支出構造の見直しを図る。」と同じ
(5) 財政状況の推移に応じて、部門、組織の見直しを行う基準等を検討する。	・各部門の財政状況の推移に応じて、部門・組織の見直しを行うための各種基準をまとめる。 ・収容定員未充足にともなう学園財政への影響に応じて、各部門や組織のあり方等について検討を行い、必要な対策を実施する。	「(4) 各部門の自立的運営を図るため、各部門における財政上及びその他の必要な対応を検討・実施する。」と統一	―	「(4) 各部門の自立的運営を図るため、各部門における財政上及びその他の必要な対応を検討・実施する。」と統一

(学園・法人事務局)

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「―」=評価不可

14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 私立学校法改正も踏まえたガバナンス改善・強化	①2025 年度施行予定の改正私学法の趣旨である「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」「建設的な協働と相互けん制」への対応として寄附行為を改定し、理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の権限分配を整理する。 ②改正私学法、及び関連の法令に基づき内部統制システムを整備する。 ③「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」については、毎年度順守状況を公開するとともに、改正私学法の内容も踏まえて、3 か年ごとに内容を見直す。	(1)改正私学法に基づき、役員・評議員の改選を行う。 (2)2024 年度に理事会の承認を得た内部統制システムの基本方針に則り、適切な業務の運営を行う。基本方針と業務運営に齟齬がないように改善する。 (3)2022 年に制定した「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」について、改正私学法の内容も踏まえて見直しを行う。	(1)A (2)C (3)A	(1)改正私学法に基づき、理事・監事・評議員の選任、理事会及び評議員会の適正な運営を行った。 (2)内部統制システムに基づく業務運営について、他の業務を優先したため、十分な検討を行えなかった。 (3)「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」について、2024 年度の達成状況を 2025 年 9 月に理事会に報告し、公表した。2025 年度は私立大学協会が策定した「日本私立大学協会私立大学ガバナンス・コード<第 2.0 版>」を活用することを確認した。
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 既存校舎の長寿命化のための維持管理及び建て替え計画	①既存建物の長寿命化のため、修繕計画を見直す。 ②建て替え時期の見直しやコンパクト化など、既存建物の建て替え計画の見直しを行う。 ③インフラ設備の更新計画を立案する。 ④上記計画に基づき、修繕及び施設更新を実施する。	(1)A 棟をより長く安全に利用するため老朽化の進行を防ぐ観点及び見栄えを改善する目的から、外壁塗装や屋上防水、玄関の整備を行う。 (2)大短の第一大体育館に、エアコンを設置する。 (3)高中幼のトイレの改修を実施する。	(1)A (2)A (3)B	(1)老朽化対策及び学生募集上の効果を狙った、外壁塗装・屋上防水等の整備については、A 棟・B 棟とも 3 月までに完了した。 (2)第一大体育館のエアコン設置については、学生会からの寄付も得て完了した。 (3)中高のトイレ改修も計画通り完了した。一方、幼稚園のトイレ改修については、安全かつ確実な施工を行うため、既存の水道管図面の精査および工事への耐性確認を慎重に行う必要が生じたため、次年度へ持ち越しとした。

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「―」=評価不可

16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 既存ネットワークインフラ/サーバーリプレイス	・学園ネットワークインフラ高速化整備：学外接続回線及び棟間接続回線の通信速度 10G 実現、末端端末レベルでのギガビット通信実現を目指す	・該当なし	―	・該当なし
(2) 統合認証システム整備 グループウェア・ワークフロー等整備	・学園全体の DX 化を段階的に進め、教職員の利便性向上と円滑な学園業務の遂行・情報共有を目的にグループウェアとワークフローシステムの整備を進め、教職員の利用用途拡大を図る。合わせて各種サービスのセキュリティ強化を図る。	(1) 統合認証システムに組み入れ可能なサービスが増えた場合、サービス提供ベンダーと設計作業を行い随時利便性向上に努める。 (2) ワークフローにおける申請書種類について、各部門からの要望を反映し電子承認（コラボフロー）によりペーパーレスで申請可能なものを増やす。	(1)A	(1) 電子承認（コラボフロー）改修は予定通りに完了した。 ①メニュー追加と承認ルート改修は 3 月に改修完了。中学、高校の教員と事務職員のメニュー表示及び承認ルートを変更し、年度替りのタイミングで運用開始予定。 ②養育両立支援休暇申請は既に運用開始し正常に運用稼働中。
(3) 教職員端末リプレイス	・多様化する学園業務に対応するため学園貸与端末のノート型パソコンへのリプレイスを進め、学園内外問わず業務を行うことができるよう整備を進める。	・該当なし	―	・該当なし
(4) 新棟・既存棟ラーニングcommons 他 ICT 環境整備、大短講義室 AV 環境整備	・大短新棟竣工を踏まえた各種commons等の学生利用スペースの ICT 利用環境整備、ならびに教員の ICT 関連機器の共同利用環境を整備することで、教育研究への活用機材を充実させかつ合理化コスト削減を図る。	(1) 白梅高校全教室で老朽化した電子黒板他 ICT 機器再整備、授業環境 ICT 整備を年度内に実施する。	(1)B (2)A (3)A	(1) コインベンダー複合機は 2025 年 3 月に 5 台入替を完了した。認証印刷システムを必要とするその他の複合機入替は 2026 年 8 月となったことから、情報システム課に検証用の複合機を 1 台先行導入した。 (2) 夏季休暇中に整備した電子黒板機器一式については、実績報告書提出後、2 月 24 日に東京都の補助金執行現地調査を受け、大きな指摘事項もなく無事に完了した。また、高等学校 DX 加速化推進事業の採択を受け、H 棟情報教室（旧 PC 教室）・K 棟総合特別教室・ラーニングcommonsのデジタル学習環境の整備を実施した。 (3) 大短コンピュータ教室（F 棟 3 階）は、2 教室→1 教室とし、大学院合同研究室の PC は 15 台→10 台とし、規模を縮小して 2026 年度に予算化した。急遽文科省の補正予算追加事業募集（補助金）があったため今年度実施した（補助金には採択されなかった）。

2. 白梅学園大学・短期大学

「子ども学」の基幹的存在である本学は主体的に学問のアップデートを図り、教育・研究の質の高さを追求することで、現代社会が求める有為な人材の育成と地域社会に貢献し、社会に選ばれる大学を目指す。そのため 2025 年度は教育、研究、募集、学生の 4 つの視点での事業を展開した。次年度の課題としては入学定員充足に向けた学生募集活動となる。

1. 学修者本位の教育活動に向けた取り組み

共通テキストを活用した初年次教育、新カリキュラムによる授業を実施し、学生の学びが深まるよう学習計画に基づく履修相談を実施した。また、学修成果の可視化による内部質保証体制の確立に向けた取り組みを進めた。

2. 地域連携を介した研究活動の基盤となる知の拠点づくりの推進

小平市・国立市との各種連携事業の継続、自治体等からの各種受託研修・講座を実施。地域課題型プロジェクトとして飯田市・府中市との連携協定の締結。また、特定課題活動として、子育て広場や防災プロジェクトへの助成を行うなど、地域貢献を目的とした知の拠点づくりを着実に進めた。

3. 「子ども学」のアップデート、高大連携校の拡大と募集力の強化

DGX 時代に対応する「子ども学」のアップデートを目的として、子ども学科と家族・地域支援学科の発展的な統合再編を実現した。高大連携活動では農業高校・総合高校にも対象を拡大し 9 校との連携協定を新たに締結。また、18 歳人口に代わる募集ターゲットとして短期大学・専門学校からの編入学生の獲得を強化。入試では総合型選抜「白梅アーリー入試」を導入した。以上の活動により前年並みの入学者数を得た。

4. 学生の大学運営参画（教職学協働）の推進

子育て広場、白梅フードパントリー、地域活動ボランティア、オープンキャンパス、学生会活動、教職学メンバーが一堂に会する懇談会など、幅広く学生が大学の事業に参画した。特に教職学協働のプロジェクト「白梅盛り上げ隊！」では、学生スタッフによる学生生活紹介の動画作成、白梅フードパントリーレポートの作成、地元企業へのオリジナル商品の提案など、学生が自ら考え行動する場を提供した。

(白梅学園大学・短期大学 学長 小玉 重夫)

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学／大学院)

2－1．白梅学園大学／大学院

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「－」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 新学科体制での目的遂行	・学位プログラムごとに一貫性のある学生指導ができています。 ・高度化専門科目が着実に履修され、学生の学びが深まっている。 ・教職志向者のキャリア教育を適切に行えている。	・カリキュラムにおける高度化専門科目が一部開始され、学生の学びが深まるような支援を行う。	B	・今年度はおおむね目標達成できた。次年度より新学科体制 3 年目を迎え、高度化専門科目のほとんどが開始されるにあたり、さらなる履修相談等の支援を行う。
(2) 可視化した学修成果を用いた教育の質向上サイクルの展開	・アンケートを活用した効果測定ができています。 ・学科でまとめたリフレクションシートにより、教育活動の振り返り、改善方策の実施を記録できている。 ・共通テキストの導入が教育の質向上につながっている。	・アセスメントポリシーに則した IR データの収集及び分析結果を学科・各部局へフィードバックし、それらの回答をもとに改善方策を検討する。 ・卒論および 2 年次のルーブリック評価の経年変化を分析するとともに、測定方法についても改善を行う。	B	・ファクトブックは 2 月に完成し、自己点検・評価委員会にて内容の確認を行った。
2. 研究活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 成果発信の強化・充実	・要件が改善された個人研究費が有効に使われている。 ・学内刊行物への投稿が活発に行われている。 ・学内助成が積極的に活用されている。	・諸活動におけるホームページ、SNS での発信を継続していく。 ・研究成果の発信を積極的な活用を目指し、投稿要項等の運用を見直す ・研究会等の実施協力	A	・ホームページ、SNS の発信の継続を行った ・「白梅学園大学・白梅学園短期大学紀要」第 61 号、「情報教育研究」第 28 号、「研究年報」第 30 号を遅滞なく学術リポジトリで公開した。 ・科研、その他研究費の情報提供を行った。
(2) 子ども学アーカイブの構築と大学年史の編纂準備	・大学、短大年史資料の収集、整理、編纂準備が進んでいる。 ・古田家寄贈書、小松隆二氏寄贈書が整理され、公開されている。 ・子ども学アーカイブの構築が進んでいる。	・古田家寄贈書のコレクションの一部公開 ・大学・短期大学の歴史資料の収集、整理を進める。	A	・古田家寄贈書の一部の所蔵登録を追加した。 ・子ども学アーカイブの構築に向けて、B 棟 2 階の倉庫を整理した。

3. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)組織的、包括的な学生支援体制の構築	・ 学生生活支援の更なる充実、総合的な支援の充実を目指す。	・ 学生課を総合窓口としつつも、専門的な対応機能として（健康、心理、生活）相談窓口が有効的に機能していくように組織的な連携体制を継続する。	A	・ 毎月の健康生活支援センター運営委員会を中心にして（学生健康支援室/学生生活支援室/学生相談室/学生委員会/学生課）の連絡連携をとり、主として特別な対応が必要な学生についての情報共有をし、その対応に努めた。
(2)多様な体験活動を通じたキャリア啓発活動の推進	・ 地域との連携協力を進め公共および企業ボランティアへの参加によって、学生の社会経験力を高めキャリア啓発を推進していく。	・ 地域活動を中心としつつ、産学連携も含めた学生の社会への参画活動について支援を引き続き行っていく。	A	・ 下記の地域連携活動を実施した。 ・ 10/4「食の万博」（東京ガスミュージアム） ➡ PR 活動学生 15 名、当日参加学生 12 名、集客数 48 名 ・ 11/1「子どもサポーター養成講座」（こども家庭支援センター） ➡ PR 活動学生数 16 名、当日参加学生数 15 名、要支援子ども参加数 14 名 ・ 11/20「学校になじめない子に寄り添う」（小平五中、小平 1 小） ➡ PR 活動学生数 15 名、当日参加学生数 8 名、外部参加者数 10 名 ・ 1/31「百人一首大会」（小平市 小川公民館） ➡ PR 活動学生数 17 名、当日参加学生数 12 名、高齢参加者 10 名、子ども参加者 10 名 ・ 毎月 1 回程度「学びの広場：遊びを通して地域の子供たちが学びを深める集い」（小平市中央公民館、子ども食堂） ➡ PR 活動学生数 27 名、1 回辺りの参加学生数 12 名程度、1 回辺りの参加者数 45 名程度

4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 本学のブランド力や学問の魅力を伝える募集活動	・本学の魅力が受験生・保護者に伝わり、18 歳人口の増減に影響を受けず入学定員 100%以上の入学者数を確保している。 ・学部の収容定員充足に向けては 3 年次編入学制度が活用されている。	・修学支援新制度の基準である収容定員率 80%以上へと回復させるため、入学定員充足を基本としつつも、学部として最低 233 名の入学者を得る。 ・7 月時点のオープンキャンパス累積参加者数の 45%が入学者数に近いものとなっている。7 月までに 520 名程度の参加者（高 3 生）を得る。 ・オープンキャンパスでは在学生を前面に出し、本学および保育・幼児教育学の魅力を受験生・保護者に伝え、参加者の出願率を上げる。 ・総合型選抜および学校推薦型選抜の入学志願者で入学定員充足を目指す。 ・白短大学編入コースや、編入学指定校制度を活用した募集活動を展開し収容定員を改善する。 ・高校、塾・予備校の進路指導担当者との接触をのべ 400 回実施する（短期大学広報と同時）。	C	以下の通り実施した。 ・5 月：高校教諭対象進学説明会（立川）開催 ・5 月～3 月：オープンキャンパス実施 ・9 月～2 月：併設高校との連携事業実施 ・通年：高等学校との連携事業実施 ・通年：進路相談会および進路ガイダンスへの参加、高校訪問、大学案内制作、受験生サイト制作、受験雑誌・進学情報サイト等での広報 結果として、大学・大学院全体として入学者が 216 名（昨年度より 2 名減）となり、学部としての達成目標である 233 名には届かなかった。 ・大学 1 年次 188 名（昨年度より 5 名減） ・大学 3 年次編入 15 名（昨年度より 1 名増） 以上、学部入学者 203 名（昨年度より 4 名減）。 ・大学院（含む再入学）13 名（昨年度より 2 名増） 以上、大学・大学院入学者合計 216 名（昨年度より 2 名減）。
(2) 高等学校新学習指導要領、アドミッションポリシーに沿った入学者選抜の実施	・高等学校新学習指導要領に対応した入試への移行を円滑に行い、公平性・妥当性を有した選抜を行っている。 ・アドミッションポリシーを理解した入学志願者を安定的に確保している。	・アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜を実施し、入学者選抜が妥当性をもって実施されているかについて検証を行う。	A	・今年度の入試状況を鑑み、以下の通り次年度入試を見直した。 ・総合型選抜アーリー入試対応の早期化と自己推薦方式の実施回数増 ・子ども学科、教育学科の年明け入試における募集人数増 ・入試日程の見直しと入試科目数の変更
(3) 学生募集に寄与する高大連携の推進	・農業・総合高校をはじめとする本学志願者の掘り起こしができている。 ・出張授業を通じ、本学の教育力と魅力あるカリキュラムが伝わる。 ・高等学校における探究活動の支援と地域エコシステムに関する普及ができている。	・連携先高校（20 校程度）における出張授業の実施 ・連携先高校における新学科の受容性調査依頼と実施	A	・連携事業を予定通り実施し、高大連携協定校の入学者は昨年度より 7 名増の 24 名となった。 ・新・子ども学科のアンケートをオープンキャンパスにて実施した。高校 1・2 年生 86 名から、興味・関心をもった者が 97.7%、受験したいと回答した者が 89.3%との回答を得た。

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「－」=評価不可

5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 大学における広報・情報発信業務の確立	・大学としての広報・情報発信を積極的に行い、白梅学園大学・白梅学園短期大学の存在を広める。	・大学・短大ホームページ改修プロジェクトと白梅盛り上げ隊！プロジェクトを通じた本学認知度向上への取り組みを継続する。 ・上記プロジェクトを通じた、教職学協働。	A	・大学・短大ホームページ改修プロジェクトは活動期限を迎えたが、継続的に Web の更新を行った。 ・白梅盛り上げ隊！プロジェクトを通じた本学認知度向上への取り組みを SNS での情報発信を通じて行った。また、オープンキャンパスにおける企画の提案を行い学生募集に貢献した。また、企業・自治体と協働した商品開発は提案を終え、企業側での継続案件として進んでいる。
(2) ターゲットを意識した発信の工夫			A	・予定通り、第二弾のホームページリニューアル、学内関係者への説明会を実施した。継続的なホームページの更新については外注化を決め、次年度の重点予算の中で経費の執行をする予定。 ・大学・短大ホームページプロジェクトの成果を活かし、新子ども学科の LP サイトの構築と PR を実施した。

6. 国際交流の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 国際交流活性化の具体的な支援策検討	・大学の諸活動、及び教員の研究活動について、英文での情報発信を強化する。また、教員の国際交流の活性化を図るとともに、学生の国際化意識を高める。	・国際関係シンポジウムの計画 ・研究費に関する旅費の取り扱いについて、関係部署との調整	A	・3月にVote at Chuo!!（中央大学主権者教育サークル）と子ども学研究所が合同で国際シンポジウム（「選挙年齢18歳引下げから10年、「主権者教育」は今一 学校でどのように政治を扱うべきか?～日独対話から学ぶ、民主主義の未来～」）を海外の教育・研究者を招聘し開催した。（会場：ゲーテ・インスティテュート東京） ・「マニフェスト ポストヒューマンな子ども」（カリン・ムリス）を、著者の許諾を受け、小玉学長が和訳した動画を公開した。
(2) 留学生の受け入れについて将来的方針の検討	・18歳人口の減少による入学志願者減少への対策と学生の国際化意識を高める留学生受け入れの両面から検討したうえで、本学としての将来的な方針が決定している。	・留学生の受け入れを積極的に行う他大学の事例を調査する。 ・日本語学校における本学のニーズを調査する。 ・実践女子大学の国際交流推進部との連携活動を通じた情報収集を行う。	B	・留学生の積極的な受け入れについては継続案件となったが、他大学の国際交流推進部との連携により学生の留学支援を実施した。
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 地域のニーズに応える「特定課題活動」の継続	・特定課題活動が継続して実施されている。 ・地域課題解決型プロジェクトの新規案件の提案があり、積極的に取り組まれている。 ・社会の要請にこたえる公開講座、研修講座が開催されている。	・子育て広場等学生主導型の地域連携の継続と市民性の涵養	A	・予定通り各種助成事業を継続実施した。
(2) 「地域課題解決型プロジェクト」による地域のシーズ発見		・小平市、国立市以外の自治体や団体との連携協定の推進 ・活動助成の推進	A	・予定通り締結に向けた取り組みを実施した。締結している自治体等々は講師の派遣など連携を継続している。なお、府中市については締結の内定を得ており、締結式の日程調整を行っている。
(3) 講座開催による社会貢献		・公開講座、リカレント講座の実施	A	・予定通り公開講座、リカレント講座を実施した。

8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 卒業生を対象としたリカレント教育	・母校への愛着、帰属意識をより高め、卒業後も応援し続けてもらえると同時に頼られる大学・短期大学を目指す。また、リカレント教育（現職者教育）を通じた卒業生との交流の場を積極的に設ける。	・公開講座等を通じたリカレント教育の継続 ・大学院での子ども学カフェの継続実施	A	・予定通り各種講座・イベントを実施した。
10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 建学の精神を継承する教職員研修の実施	・大学・短期大学の歴史を伝える機会を設け、先人たちの志と建学の知的心性を知り、ヒューマンイズムの精神の理解を深める。	・年史編纂室の業務の見直しと事業計画を再検討する。 ・ホームページ等でリスト化された資料を紹介し、大学・短期大学の今までの教育研究活動を共有する。	B	・人事異動の影響で一時事業停止となったが、図書館業務として、本学の歴史的資料の散逸を防止する取り組みが開始され、収集した大学・短大の歴史的資料を保管するスペースを E 棟 3 階に確保するなど、100 周年事業へ向けた基盤整備を進めた。
(2) 建学の精神の継承	・建学の精神の継承と社会の変化に応じた変革	新学科構想における建学の理念、大学の目的の明確化と子ども学のアップデート	A	・新学科の設置は行わなかったが、子ども学のアップデートの取り組みとして、DGX 時代を踏まえた新カリキュラムを新学科設置準備委員会において検討し、子ども学科のカリキュラム変更によりリニューアルを実施することができた。 指定保育士養成施設定員変更計画書を 3 月末に提出
11. 令和充実 5 ヶ年計画・80 周年記念事業				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 中期計画の履行	・大学としての将来構想を策定し、中長期的な教学プランに基づいて大学運営を進める。また、白梅学園創立 80 周年記念事業の一環である学園史編纂を通して、特に大学開学以降の歩みを整理する。	・4 月履行状況調査回答及び、意見対応 ・大学・高専機能強化支援事業による新学科	—	・大学・高専機能強化支援事業は理事会の承認を得て、事業廃止に関する手続きを行った。 履行状況調査結果の公開に対応した。
(2) 大学開学以降の歩みの整理		・年史編纂室による、資料のリスト化を進める。 ・社会教育協会と連携した資料収集を行う。	B	・人事異動の影響により一時事業停止となったが、図書館業務として、本学の歴史的資料の散逸を防止する取り組みが開始され、収集した大学・短大の歴史的資料を保管するスペースを E 棟 3 階に確保した。

12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画				
施策名	中期計画の全体像	2025年度(中期計画2年目)の達成目標	年間評価	2025年度(中期計画2年目)の達成状況(総括)
(1) 基本構想策定と基本計画の答申	・大学短大新棟について、2024年工事開始、2026年供用開始に向けて、建築委員会で検討を進める。	・常勤理事会から大学・短大へ検討を依頼された事項について対応する。	A	・当初の新棟建設計画を再検討し、大学図書館内および学生食堂にコモンズエリアを整備し、新棟に代わる機能を一部代替する空間を創出することができた。また、学生を含めた教職学協働の懇談会を開催し、建築計画に関する幅広い視点での意見聴取を行った。
(2) 新学科設置に続く、新たなプランの検討	・白梅学園グランドデザイン(SGD)と連動し、2026年度までに新たなプランが具現化されている。	・コンサル(日本開発構想研究所)の支援を受けた、設置準備室による大学・高専機能強化支援事業を活用した改組申請、将来構想の構築。	A	・当初の将来構想計画を再検討し、家族・地域支援学科と子ども学科の発展的な統合、DGX時代を踏まえた新カリキュラムを実装した新しい子ども学科を構築することができた。
13. 財政再建計画				
施策名	中期計画の全体像	2025年度(中期計画2年目)の達成目標	年間評価	2025年度(中期計画2年目)の達成状況(総括)
(1) 大学・短期大学全体の適切な定員設定での改組	・外部募集環境を踏まえ、適切な定員管理による収入の安定化に寄与している。	・短期大学の財政状況・募集状況を共有し、適切な定員規模の見直し ・基幹教員制度の活用	A	・予定通り事業を実施した。
(2) 広報戦略の策定効果検証	・費用対効果を検証した予算配分システムが実行されている。	・費用対効果の高い広報活動を展開する。	A	・予定通り、外部業者による募集分析会を開催した。今後は、理事クラスにも参加を呼びかける。また、次年度の予算4%減に向けた広報予算の再検討を実施。WebやSNSを活用した募集広報活動の強化への転換を図る計画を立案した。
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底				
施策名	中期計画の全体像	2025年度(中期計画2年目)の達成目標	年間評価	2025年度(中期計画2年目)の達成状況(総括)
(1) 第三者評価を通じた、より適切なガバナンス体制の構築	・透明性の高い執行体制が築かれている。	・第三者評価指摘事項の改善	A	・家族・地域支援学科定員充足率については、学科の廃止を以って対応した。教授会諮問事項は規程化するか検討を行っている。
(2) リスク管理のため、危機管理マニュアルの整備	・危機管理マニュアルが策定されている。	・大学単独で備えるべき危機管理についての対応の検討	A	・本年12月より施行されるこども性暴力防止法における実習生の扱い通知に対応した準備を進めた。研究費に関するマニュアルについて、研究費不正防止委員会において意見を聴取し、より明確、適切な処理を行えるようにマニュアルを改定する。

15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 学生の居心地のよい空間づくりの促進	・現状不足している学生の居場所空間の拡充確保を目指す。	・学生食堂の改修により学生の居場所空間としての提供 ・大短エリアの正面棟である A 棟の外壁修繕をし外来訪問印象の改善と建物長寿命化 ・体育館の空調設備の導入	A	・大学図書館内および学生食堂にコモンズエリアを整備し、新棟に代わる機能を一部代替する空間を創出することで学生にとって居心地の良い空間を整備した。 ・A/B 棟の外壁塗装工事を実施。 ・体育館の空調設備の設置が行われた。
16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 学習支援システムの活用状況検証	・学習支援システム（ラーニングマネジメントシステム）の活用と合わせ、講義室の AV 設備環境の統一化を図ることで、全ての授業が ICT を活用した授業展開ができるようにし、ポスト・コロナ時代をも見据えた環境整備を進める。	2025 年度該当なし		

【主要な事業の報告】

(白梅学園短期大学)

2-2. 短期大学

【年間評価（成果）】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)新カリキュラムの実装	・入学時からのきめ細かいゼミ指導ができています。	・2024 年度入学生は共通テキストを使用し、1 年前期より「基礎ゼミナール」を受講している。学生の卒業時の学修成果について確認する。	B	・基礎ゼミナール実施して2年が経過し、新カリキュラムの1年目である学生が卒業を迎え概ね達成できた。今後は基礎ゼミナールの振り返りと学修成果について検証する。
(2)短期大学独自の学修カルテを用いた学修成果の可視化	・学修成果を可視化し、教育活動の振り返り、改善方策の実施に活かしている。 ・共通テキストの導入が教育の質向上につながっている。 ・リフレクションシートにより、教育活動の振り返り、改善方策の実施を記録できている。	・ループリック評価を着実に実行し、評価の分析を行うとともに、測定方法についての検証と改善を実施する。 ・リフレクションシートによる学生の自己評価とフィードバックを行う。	C	・評価指標を作成したが、他の指標等の実施を調整するため2026 年度導入を予定する。
2. 研究活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
3. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				

4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 定員充足率の改善へ向けた募集活動	・ 本学の魅力が受験生・保護者に伝わり、18 歳人口の増減に影響を受けず入学定員 100%以上の入学者数を確保している。	・ 修学支援新制度の基準である収容定員率 80%以上へと回復させるため、入学定員充足を基本としつつも、最低 50 名の入学者を得る。 ・ 7 月時点のオープンキャンパス累積参加者数が入学者数に近いものとなっている。7 月までに 70 名程度の参加者（高 3 生）を得る。 ・ オープンキャンパスでは在学生を前面に出し、本学および保育・幼児教育学の魅力を受験生・保護者に伝え、参加者の出願率を上げる。 ・ 総合型選抜および学校推薦型選抜の入学志願者で入学定員充足を目指す。 ・ 大学編入コースを PR し、本学短大への進学メリットを訴求する。 ・ 高校、塾・予備校の進路指導担当者との接触をのべ 400 回実施する（大学広報と同時）。 ・ 日本私立短期大学協会（広報委員）の業務を通じて短期大学の魅力を発信する役割を担う。	A	・ 以下の通り実施した。 ・ 5 月：高校教諭対象進学説明会（立川）開催 ・ 5 月～3 月：オープンキャンパス実施 ・ 9 月～2 月：併設高校との連携事業実施 ・ 通年：高等学校との連携事業実施 ・ 通年：進路相談会および進路ガイダンスへの参加、高校訪問、大学案内制作、受験生サイト制作、受験雑誌・進学情報サイト等での広報 結果として、短期大学保育科への入学者数は 51 名となり（昨年度より 5 名増）、目標の 50 名を達成した。
(2) 高等学校新学習指導要領、アドミッションポリシーに沿った入学者選抜の実施	大学と連携して推進する。			
(3) 学生募集に寄与する高大連携の推進	大学と連携して推進する。		B	連携事業を予定通り実施し、高大連携協定校の入学者は昨年度より 1 名増の 4 名となった。
5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
	大学と連携して推進する。			
6. 国際交流の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
	大学と連携して推進する。			

7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025年度(中期計画2年目)の達成目標	年間評価	2025年度(中期計画2年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025年度(中期計画2年目)の達成目標	年間評価	2025年度(中期計画2年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2025年度(中期計画2年目)の達成目標	年間評価	2025年度(中期計画2年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
11. 令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業				
施策名	中期計画の全体像	2025年度(中期計画2年目)の達成目標	年間評価	2025年度(中期計画2年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画				
施策名	中期計画の全体像	2025年度(中期計画2年目)の達成目標	年間評価	2025年度(中期計画2年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
13. 財政再建計画				
施策名	中期計画の全体像	2025年度(中期計画2年目)の達成目標	年間評価	2025年度(中期計画2年目)の達成状況(総括)
(1)大学・短期大学全体の適切な定員設定での改組	・外部募集環境を踏まえ、適切な定員管理による収入の安定化に寄与している。	・短期大学の財政状況・募集状況を共有し、適切な定員規模の見直し ・基幹教員制度の活用	B	・予定通り事業を実施した。
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底				
施策名	中期計画の全体像	2024年度(中期計画1年目)の達成目標	年間評価	2024年度(中期計画1年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）				
施策名	中期計画の全体像	2024年度(中期計画1年目)の達成目標	年間評価	2024年度(中期計画1年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				

3. 白梅学園高等学校

生徒間の対話と表現のある授業場面を創り出していくことや少人数での対話を含めた学習活動は徐々に拡大実施されてきている。体育祭・合唱コンクール・白梅祭などの三大行事においても、実行委員会生徒による主体性が発揮されるようになり、その質も向上した。

学校見学会・体験授業・学校説明会といった募集活動における在校生の活躍や教職員の丁寧な対応により、参加した中学生・保護者からのアンケート結果ではほとんど肯定的な意見・感想がみられた。しかしながら、入学者数は 205 名と極めて少なくなった。

【予定通り進捗した主な施策】

1 質の高い授業づくり

生徒間の対話と表現のある授業づくりについては、3 月時点で全教員の 85.7%が日常的に実施している。少人数による対話を含めて学習活動も増加傾向にある。

2 生徒が達成感・成就感を味わえる特別活動

体育祭・合唱コンクール・白梅祭といった三大行事において、実行委員会生徒の主体性がより発揮され、多くの生徒が達成感や成就感を味わうことができた。

【実施できなかった主な施策】

1 入学者数の安定確保

教職員は、生徒と共に丁寧な募集活動を実施したが、来校者数が伸びず、入学者数増加へつなげることができなかった。募集人員 280 名に対して、入学者数は 205 名と大きく減少した。

(白梅学園高等学校 校長 武内 彰)

【主要な事業の報告】

(白梅学園高等学校)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)質の高い授業づくり	- 生徒間の対話と表現のある授業が、日常的に実践されている。 - 生徒による授業評価アンケートにおける設問「授業中に対話的な学びがあるか」において、5段階評価で4.5を達成する。	- 日常的に授業内で「生徒間の対話と表現」を実施する教員の割合を増やしていく。 【専任教諭・常勤講師・非常勤講師全体で78%を目指す（前年度達成率74%）】 - 生徒による授業評価アンケートにおいて、質問項目「対話的な学びがあるか」の5段階評価で4.5を目指す（前年度評価4.4）	B	- 日常的に授業内で「生徒間の対話と表現」を実施している教員の割合は、実施率85.7%（目標値78%）と前進した。 - 生徒による授業評価アンケートにおいて、「対話的な学びがあるか」の5段階評価は4.29（目標値4.5）と前年度より後退した。
3. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)生徒が達成感・成就感を味わえる特別活動	- 生徒たちが体育祭・合唱コンクール・白梅祭を通して達成感・成就感を味わうことができる。 - 各実行委員会生徒の主体性を活かした計画・実施とする。	- 体育祭・合唱コンクール・白梅祭において、実行委員会生徒の主体的な取組が前年度以上に発揮されている。 - 学習や部活動とのバランスを図りながら、生徒一人一人が役割を担い、全校行事における達成感・成就感を味わうことができる。	B	- 体育祭・合唱コンクール・白梅祭において、実行委員会生徒の主体的な取組が前年度以上に発揮された。 - 三人行事を実施するにあたっては、学習や部活動とのバランスを図りながら進めることを基本とするが、一部で偏りが見られた。 - 生徒たちの様子から、三人行事において、達成感や成就感を味わうことはできたと見ている。
(2)生徒の希望進路の実現	- 現役で国公立15名、早慶上理20名、GMARCH35名の合格者を出す。 - 特別選抜コース会議において模試の分析を行い、教員会又は校内研修等において共有し、教科指導へ反映させる。 - 各教科内で効果的・組織的な特別選抜コースの教科指導を確立させる。	- 入学時に国公立系の生徒を10名以上確保する。 - 国公立大学・早慶上理・GMARCHへの進学志望を持った生徒の希望を叶えるために、組織的な学習指導・進路指導を前進させる。	C	63期生（令和8年度入学生）では、国公立系の入学者数は7名にとどまった。（目標値10名） - 国公立大学・早慶上理・GMARCHへの進学志望を持った生徒の希望を叶えるための組織的な学習指導・進路指導は道半ばである。

(白梅学園高等学校)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「―」=評価不可

4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)入学者数の安定確保	・募集人員の確保(当面一学年 280 人の人員確保を目指す) ・特別選抜コースの入学生を確保するために、塾訪問をルーティン化する。(国公立系生徒の出身塾)	・入学者数 280 名を確保する。	C	・学校 Web サイトの更新回数は前年度より減少し、週当たり複数回の更新は達成できなかった。通年で 1.48 回/週(目標値 3.8 回以上/週) ・SNS では白梅の魅力や強みが訴求できるように情報発信した。(Instagram の更新は 97 回(ストーリーズを除く)であった) ・63 期生(令和 8 年度入学生)の入学者数は 205 名と後退した。(募集人員 280 名)

4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部

本校の最重要課題である生徒数確保のために教職員が一致団結して募集対策に取り組んでおり、昨年度は18年ぶりに定員数を超えることができた。しかしながら、今年度は必達目標をクリアしながらも定員数には届かなかった。その主な原因は、併願校の変化から塾や保護者・生徒の本校への評価の変化があると考えられる。その点も踏まえたうえで、次年度に向けて新たな取り組みを積極的に取り入れ、選ばれる学校・魅力ある学校づくりを推進していく。

【予定通り進捗した主な施策】

・募集対策

教員一人一人が責任と自覚を高められるようにメンターを一新するとともに塾訪問等の進捗状況を把握できる一覧表をPC上で共有することで、ムリ・ムダ・ムラのない募集活動を進めた。その結果、学校説明会参加者数は800組を超え、昨年度比111%となった。

・ブランディングの推進

英語教育と探究学習、キャリア教育を一体化させる具体策としての5000字論文からの英語サマリーの作成は、将来を見据えたキャリア形成の一部として定着した。また、鉄道模型ジオラマはモジュール部門、一畳レイアウト部門ともに最優秀賞を受賞し、さらに2年連続でドイツでの世界コンベンションに参加し、今年度は最優秀賞を受賞した。さらに、多くの皆様方からの応援を頂き、クラウドファンディングは目標額の200%を超えた。

・入学者数の確保

350校ほどの塾リストの中から120校を選定し、全教員でメンターの割り振りを行うとともに、塾での面接が本格化する9月から10月にかけて計画的・効率的な訪問を実施した。塾からの情報については一覧表に記載することで共有化を図った。また、学校説明会の内容を充実させることで、受験者数、入学者数の確保に向け取り組んだ。

・進路実現

中学1年生から模試分析を常態化することで、自分を見つめ直すことや到達目標を明確にして努力を重ねることの大切さを生徒に浸透させていった。また、進路実現mtgを通して6年生全員について全教員が受験情報の共有を図り、協力体制を構築しながら、生徒一人一人の進路実現に向け行動した。一方、月に一回ペースで学力向上委員会を実施し、全教員体制で生徒の学力の向上に取り組んでいるかを確認していった。10月には、今年度から導入した「自主課題プリント」を生徒評価（成績）に具体的に反映させていく仕組みについて教員間でのコンセンサスを図り、これによって生徒の自学自習が推進され、学力の向上が図られた。進路実現においても、早稲田、慶応、明治、法政、立教など難関私大に多くの合格者を出すことができた。

以上

（白梅学園清修中学校 校長 南 和男）

【主要な事業の報告】

(白梅学園清修中学校・中高一貫部)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「―」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 女子教育の充実	・女子校の社会的ニーズに応え、自ら考え判断し行動できる女性の育成を目指す。	・高大連携校の津田塾大学や実践女子大学と授業の単位認定や国際理解教育等の連携を深める。	S	5 月のスポーツフェアや 9 月の全校遠足などを通して、学年を超えた交流を図り、清修生としての一体感を醸成できた。また、外部的には津田塾大学、実践女子大学、日本女子大学、東京女子大学との高大連携を成立させ、高等教育、女子教育への「学びの継続」のスタイルを構築した。
(2) 英語教育の推進	・英語によるコミュニケーション能力の育成を目指す。	・新たな海外研修プランと探究学習、キャリア教育の繋がりを持たせた、英語を主とした大学受験へと結びつける。	S	夏季休業中に実施された英検講習の参加者が増えて講習会を増設するなどを通して、英検への意欲を向上させている。また、新しいネイティブを 2 名も、生徒と積極的に交流を図り生徒の英語学習への興味関心を高めることができた。さらに、フィリピンのサンホセ大学との姉妹校提携の準備を進めている。
(3) ICT 活用	・ICT を活用する能力を高め、主体的な学びの基盤となる能力の育成を目指す。	・ICT の活用能力を授業や委員会活動などを通して高める。	S	オンライン授業は 5 月と 10 月に全校で実施し、接続に大きな課題はなかった。また、緊急時にも学びの継続ができるように自主課題プリントをクラウド上のフォルダに常備することができた。年度途中にマックスハブを導入し、授業や委員会活動だけではなく、フィリピンとのオンライン交流会など幅広く活用することができた。
2. 研究活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 生徒の学力向上	・学力向上に向けた授業改善に組織的に取り組み、自らよりよい授業を目指す教員を育成する。	・模試分析を行い、学力向上・進路目標の実現に向けた情報共有を全教員で行う。	A	中学 1 年生から模試分析を常態化することで、自分を見つめ直すことや到達目標を明確にして努力を重ねることの大切さを生徒に浸透させていった。また「自主課題プリント」を生徒評価(成績)に組み込むことで生徒の自学自習の意識を向上させた。進路実現 m t g を通して 6 年生全員について全教員が情報の共有を図り、協力体制を構築しながら、生徒一人一人の進路実現に向け行動していった。さらに、月一回ペースで学力向上委員会を実施し、全教員体制で生徒の学力の向上に取り組むよう努めている。

3. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 自己実現に向けた生徒指導の充実	・一人一人の生徒の教育的ニーズに応じて個別最適な学びを支援する。	・ルールづくりを通して自主性を育むとともに、課題解決に向けた対応力も育成していく。	S	生徒指導については、適宜、校内委員会を開催し、結果まで見据えた対応を組織として実施した。8 月末の校内研修では、一人一人が主体的に学校改革へ取り組むよう教員の意識改善を図った。必要に応じて病院や子ども家庭支援センター等との連携を図り、総合的に生徒の発達を支援した。
4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 募集対策の工夫	・安定的に入学者数を確保する。	・学校説明会等参加者数 500 組以上、入学生徒数を 60 名とする。	A	教員一人一人が責任と自覚を高められるようにメンターを一新するとともに塾訪問等の進捗状況を把握できる一覧表を PC 上で共有することで、ムリ・ムダ・ムラの少ない募集活動を進めることができた。その結果、学校説明会参加者数は 800 組を超え、昨年度比 111%となった。しかしながら、本校の位置づけの変化などにより、入学者数は必達目標をクリアしたものの定員充足には至らなかった。
5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) ブランディングの推進	・ブランドの定着が図られている。	・英語教育や“HEART Global”、Teatime、ミニコンビニ、鉄道模型などをポイントとして積極的に本校のブランディングを構築する。	S	英語教育と探究学習、キャリア教育を一体化させる具体策としての 5000 字論文からの英語サマリーの作成は、将来を見据えたキャリア形成の一部として定着した。また、鉄道模型ジオラマはモジュール部門、一畳レイアウト部門ともに最優秀賞を受賞し、さらに 2 年連続でドイツでの世界コンベンションに参加するとともに今年度は最優秀賞を取得した。クラウドファンディングは目標額の 200%を超えた。中学、高校での海外語学研修については、現地校とズームで交流を図るなど着実に準備が進行できている。

6. 国際交流の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 外国人、留学生との交流	・外国人とも積極的にコミュニケーションを図ることができる。	・次年度に向けて 2 年生のフィリピンセブ島研修と 5 年生のオーストラリアブリスベン研修の準備を行う。	S	11 月の“HEART Global”に当たって在校生宅でホームステイを行い、交流を図った。ネイティブの国籍がフィリピン、オーストラリアということを最大限生かし、2 年生のフィリピン、4 年生のオーストラリア語学研修に向けて、計画的・効果的な事前学習を行うことができた。
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 小平市との連携	・地域社会に貢献する学校を目指す。	・小平市中央公民館事業と連携を図り、事業に参加している。	S	小平市の路上喫煙防止キャンペーンに、校長を含め多くの生徒が参加した。小平市公民館の新築に伴い、小平市事務局や隈研吾事務所とも連携を深められジオラマを作成した。
8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 同窓会との連携	・あこがれの先輩としての存在からキャリア教育に結び付ける。	・OG 進路講演会 (9 月) と学校説明会 (4 月～9 月) への参加協力を得ている。	A	9 月の学校説明会では、4 名の OG が大学において清修での学びが役立っていたことの説明をするとともに、OG が 6 年生の進路実現のために特に総合型選抜の対策について個別的に相談に乗る仕組みを作ることができた。
9. 働き方・仕事の仕方の見直し				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 学校運営組織の強化	・校務を組織的に取り組むため、責任者を明確にする。	・部長会を学校運営の中核機関と位置づける。	S	朝の打ち合わせや部長会、各委員会の位置づけを明確化することで、会議時間の短縮化が図られた。塾訪問やフェスタなどの学校行事や入試など全教員が協力して行う行事が増えてくる中で、風通しの良い組織体制を構築し、情報の共有や非常事態への即時対応などでリスク管理を徹底することができた。

10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)建学の精神を時代のニーズで捉える。	・時代のニーズに応じた育てたい生徒の姿を明確にする。	・ヒューマンイズムの精神は Society:5.0 の時代にあって最も重要な資質となることを入学式や卒業式、学校説明会等で理解を図る。	A	入学式や学校説明会、塾対象の説明会等において、答えが必ずあるとは限らない現代において大切となるヒューマンイズムについて説明し理解の浸透を図っている。
13. 財政再建計画				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)学校運営経費のスリム化	・入学生徒の 40 名確保 ・学校運営経費のスリム化	・常に中高事務課と連携をとり、予算の執行を行う。保護者負担金については支出状況を注視し、残金の確認を行う。新海外研修プラン実施に当たっても、旅費と積立金額の試算を行う。	A	年度を通して事業の振り返りを行っていく中で、予算が計画通りに執行されているか確認を行った。次年度予算の策定について、できうる限りの削減と限られた予算の効果的な活用を進めていく。
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)学校経営及び学校運営の組織的運用	・全教員が情報の共有を前提として業務が遂行できるようにする。	・部長会の資料をその日の内にアッロードし、全員で共有する。	S	勤労意欲の向上のため、会議時間は勤務時間内ですべて終了させることと、会議の時間自体の短縮ため情報の共有化と事前調整が進め、定着させることができた。
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)施設の改修	・改修が実行されている。	・和式トイレを洋式トイレに改修する。	A	トイレ改修は 2 月末に完成し、生徒たちからも大変好評である。一方で、生徒の増員に伴う自転車駐輪場の確保が喫緊の課題となっている。
16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)今後のオンライン教育のあり方の検討	・タブレット端末を使った新しい授業の創造	・ICT の活用状況の全体把握を実施する。	S	生徒は個人端末を 5000 字論文のための調べ学習や普段の授業、委員会活動やエリアコラボレーションなどで多様に活用されている。10 月には全校でオンライン授業を行い、ICT 機器への対応を生徒に習熟させた。

5. 白梅学園大学附属白梅幼稚園

概ね順調に事業を進められた。自由遊びを中心とする子ども自ら遊ぶ幼児教育の実践を行い、その研究を推し進めた。

「先進的な幼児教育の推進」としては、文部科学省研究開発学校として小平第一小学校と共同で、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」の実践と研究を進めた。現行の生活科に代わり、5歳児から小学2年生の3年間において、「生活発見」「生活探究」「生活交流」を共通要素とするカリキュラムで、本格実施を行った。年間通して同学年で取り組む「横」の展開と、異学年による間接的直接的な交流や、経年による経験の深化や多様化を活用する「縦」の展開からカリキュラムを構成する。研究開発には、幼小間で組織的に取り組み、2月に幼稚園と小学校の共催で公開研究会を開催し、成果の報告を行った。

「満3歳児保育」については、保育室等の環境の整備を行い、7月から開設し、14名の園児を迎えた。毎月、入園児が累積するが、未就園2歳児クラスからの移行や、保育時間の調整等により、迎える側の園児も、新入園の園児も落ち着いて過ごしている。満3歳児保育を開始したことで、未就園児クラスの希望者や、本園に関心を示す家庭が増加した。

「未就園児保育」は、地域の子育て支援であり、本園の保育を体験し理解を深める機会でもあり、募集対策上も大変重要な事業である。今年度は満3歳児保育の導入に伴い、2歳2か月からの利用を随時可能とし、定員を超える利用者を迎えた。12月からは、東京都「多様な他者との関わりの機会の創出事業」として、1歳6か月児以上の預かり保育を開始した。また、2026年度から導入される「こども誰でも通園制度」（小平市乳児等通園支援事業）に申請し、認可を得た。今後も未就園児保育の拡充に努めたい。

今年度は、白高保育コースとの交流を活発に行った。家庭科における保育体験や遊具制作、共同での灯籠づくり、環境整備や保育補助などのボランティア体験などが行われ、園児の遊びや生活をより充実させる機会となった。

【予定通り進捗した主な施策】

1. 満3歳児保育の開設
2. 未就園児保育の拡充：未就園児クラス《びよびよ》の改組、東京都「多様な他者との関わりの創出事業」の実施、こども誰でも通園制度(小平市乳児等通園支援事業)の認可
3. 文部科学省研究開発学校の幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」の実践開発

【残された課題】

1. 安全管理：保育室の内線に代わる、端末等の配備の推進
2. 安全で衛生的な環境の整備：旧園舎のトイレ改修や保育室照明の入れ替え等

以上

(白梅学園大学附属白梅幼稚園 園長 本山 方子)

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)「子ども自ら遊ぶ」幼児教育の実践の構築	・保育環境に誘われ、「もの」「人」「こと」を相互に関連付け、子ども自ら遊びを立ち上げ、深める「子ども自ら遊ぶ」幼児教育を実践する。	①自由遊びを主とする子ども自ら遊ぶ保育を実施する。カリキュラム・マネジメントにより、日々の保育や行事等を振り返り、年齢に応じた保育を更新する。 ②満 3 歳児クラスを開設し、好奇心や探究心を引き出すカリキュラムを作成し、落ち着いて生活や遊びに取り組める保育環境を構成する。	A	①自由遊びを主とする子ども自ら遊ぶ保育を実施した。カリキュラム・マネジメントにより、日々の保育や行事等を振り返り、年齢に応じた保育を推進した。 ②満 3 歳児クラスを 7 月に開設し、14 名の園児を迎えた。好奇心や探究心を引き出すカリキュラムを作成し、落ち着いて生活や遊びに取り組める保育環境を構成した。
(2) 保育環境の最適化	・遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。	①保育者自らの保育の構想に応じて、保育室内のものの配置を見直し、可変的で衛生的な保育環境を構成する。 ②室内外に配置されたものの傷みや安全性等を点検し、必要に応じて修理や更新を行う。 ③環境会議を開催し、教員相互に環境構成を実地で学び合う。 ④園庭ワークショップを実施し、園庭や屋外の保育環境について最適化を図る。	B	①保育者自らの保育の構想に応じて、保育室内のものの配置を見直し、可変的で衛生的な保育環境を構成することを継続した。 ②室内外に配置されたものの傷みや安全性等を点検し、配置の変更や、備品の交換等を行った。 ③環境会議を各学期当初及び行事の前後に計 5 回開催し、教員相互に環境構成を実地で学び合った。 ④園庭ワークショップについて保護者 11 名とともに実施し、屋外の備品等の修繕や制作を行い、保育環境について最適化を図った。

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価（成果）】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

(3) 教育における大学・短大との連携・協力の強化	・大学・短大による子ども学の実践や、保育者養成教育に協力し、互恵的な学びの関係を築く。	①大学・短大の教育実習生を受け入れ、保育者養成教育に貢献する。 ②大学・短大の学科や施設等と連携・協力し、園児及び学生の諸活動の充実を図る。 ③大学・短大で開講する授業等に対し、参観の場の提供や、幼児教育実践や保育職に関する話題提供などを通して協力を行う。 ④保育環境整備や保育補助等について、高校生や大学生等のボランティア等を導入し、学生・生徒の保育経験の充実に貢献する。	A ①大学・短大の教育実習生を10名を受け入れ、保育者養成教育に貢献した。このほか心理実習生を5月に2名受け入れた。 ②大学・短大の施設や教職員の協力を得て、7月の年長児行事でオリエンテーリングを行い、園児の活動の充実を図った。 ③大学・短大で開講する授業について、5月に1回、12月～1月に2回、保育参観の場を提供した。大学の教育実習指導一環で、大学の子どもの学科と子ども心理学科の学生に計2回講義を行った。また子どもの学科のオリゼミで、教員1名が保育職について話題提供を行った。 ④保育環境整備や保育補助等について、白高生を受け入れ、生徒の保育経験の充実に貢献した。具体的には、家庭科の一環で29名が2回の保育参観を行い、その他に遊具制作を2回行った。7月には灯りまつり用の灯籠制作で、2日間のべ58名が園児と共に活動した。夏には5日間で延べ37名が、秋冬には6日間で延べ46名が保育補助等のボランティアを行った。また、白梅学園大学や大学院の学生のボランティアとしては、年長児のみそづくりの援助で延べ11名が、10月の芋掘りでは5名の協力を得た。そのほか、年長児の高尾山遠足の引率補助についてアルバイトで協力を得た。
----------------------------------	--	--	--

2. 研究活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 先進的な幼児教育の研究の推進	・子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育のカリキュラムを開発し、実施する。 ・文部科学省研究開発学校として、小平第一小学校とともに、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」を開発する。 ・公開保育研究会の開催や、研究報告の刊行を行い、研究成果を公表する。	①毎月、園内研究会や合同カリキュラム会議等を実施し、子どもの育ちと保育のありようについて協議し、実践研究やカリキュラム開発を推進する。 ②公開保育研究会の開催などを通して研究成果を公表したり、他園を参観したりして、他園の保育者等との交流を図る。 ③文部科学省研究開発学校として、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」を年間通して、実践を試行する。	A	①園内研究会を 7 回、合同カリキュラム会議を 11 回開催し、子どもの育ちと保育のありようについて協議し、実践研究やカリキュラム開発を推進した。 ②公開保育研究会について「「探究」を自律的に深化させる」をテーマとして、小平第一小学校と共催で 2 月に開催し、研究開発学校の成果を公表した。 ③文部科学省研究開発学校として、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」の実践を展開した。小平一小とは、研究開発関連の委員会や幼小合同研究会、教員講習会等を通して、協働的に研究開発を進めた。
(2) 研究における大学・短大との連携・協力の強化	・大学・短大の教員や学生に研究の場を提供し、学術研究の成果の還元を受けるとともに、本園の研究への支援を受けるなど、幼児教育に関する研究を相互に高めあう。	①大学・短大の研究・調査に協力し、その成果についてフィードバックを受ける。 ②幼稚園が推進する研究について、大学・短大の教員から指導・助言や援助を受けてさらなる充実と改善を図る。 ③大学の研究の受入については総務部が担当し、大学・短大の教育・研究の受け入れなどについて検討を進める。	B	①他大学の研究・調査 2 件に協力した。1 件は幼児の知覚に関する研究、もう 1 件は幼小連携・接続に関する研究であった。 ②幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」の研究開発について、公開保育研究会で大学・短大の教員 3 名に指導・助言をいただいた。 ③大学・短大の授業における保育参観として、2 件計 4 回を受け入れた。

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

3. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 園生活において支援を要する子どもの育ちの保障	(該当なし)	①小平市の巡回相談等を活用し、支援を要する子どもの育ちに関して助言を受け、保育や子ども理解に活かす。 ②クラスの状況に応じて保育補助者を配置し保育の充実を図り、クラスの子どもたちの集団かつ個の育ちを促す。	B	①小平市の巡回相談等を活用し、支援を要する子どもの育ちに関して助言を受け、保育や子ども理解に活かした。 ②クラスの状況に応じて保育補助者を配置を変更し保育の充実を図り、クラスの子どもたちの集団かつ個の育ちを促した。
(2) 預かり保育の充実	・預かり保育において、安定的な受け入れを行い、保育内容の充実を図る。	”①預かり保育について、随時、環境の見直しと内容の工夫を行い、長期休業中を含め通年で実施する。 ②おやつについて、子どもに応じて過不足のないよう、準備する。 ③満3歳児クラス入園児について、ならし保育を含めて預かり保育を実施する。”	B	①預かり保育について、内容の工夫を行い、春季及び夏季休業中を含め実施した。 ②おやつについて、子どもに応じて過不足のないよう、提供した。 ③満3歳児クラスの園児14名中、預かり保育の定期利用3名、日ぎめ利用6名があり、保護者のニーズに応えた。
(3) 保護者の子育てを「エンカレッジ」する支援の実施	・保護者による各種活動の支援や相談機能の充実を図り、園児の健やかな成長を支える。	①保護者対象の講座を開催する。 ②梅の実会や保護者によるサークル活動、保育参加活動などの保護者活動を支援する。	A	①6月に保護者対象の白梅講座として「幼稚園から小学校へ：『小1の壁』って本当にあるの？生活と学習のリアル」を、公立小学校元校長を講師に開催した。20名の参加があった。10月に子どもと親を考える講座として「幼児期からの性教育を考える」を開催し、年長児と保護者17名が参加し、身体や性についての理解を深めた。 ②梅の実会(PTA)の活動や、サークル展の開催を含めた保護者によるサークル活動、うめのみまつりやこままわし、ふだんぎコンサートなど保育と連動する保護者活動を支援した。
(4) 各種支援における大学・短大との連携・協力の強化	・教員研修や保護者支援、発達・子育ての相談・支援等、よりよい教育を支える諸活動について、連携と協力を図る。	①大学の発達・教育相談室や専門領域の教員と連携して、子育てや発達の相談に対応する。	B	①大学の発達・教育相談室と連携して、子育てや発達の相談に対応した。

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

3. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 園生活において支援を要する子どもの育ちの保障	(該当なし)	①小平市の巡回相談等を活用し、支援を要する子どもの育ちに関して助言を受け、保育や子ども理解に活かす。 ②クラスの状況に応じて保育補助者を配置し保育の充実を図り、クラスの子どもたちの集団かつ個の育ちを促す。	B	①小平市の巡回相談等を活用し、支援を要する子どもの育ちに関して助言を受け、保育や子ども理解に活かした。 ②クラスの状況に応じて保育補助者を配置を変更し保育の充実を図り、クラスの子どもたちの集団かつ個の育ちを促した。
(2) 預かり保育の充実	・預かり保育において、安定的な受け入れを行い、保育内容の充実を図る。	”①預かり保育について、随時、環境の見直しと内容の工夫を行い、長期休業中を含め通年で実施する。 ②おやつについて、子どもに応じて過不足のないよう、準備する。 ③満3歳児クラス入園児について、ならし保育を含めて預かり保育を実施する。”	B	①預かり保育について、内容の工夫を行い、春季及び夏季休業中を含め実施した。 ②おやつについて、子どもに応じて過不足のないよう、提供した。 ③満3歳児クラスの園児14名中、預かり保育の定期利用3名、日ぎめ利用6名があり、保護者のニーズに応えた。
(3) 保護者の子育てを「エンカレッジ」する支援の実施	・保護者による各種活動の支援や相談機能の充実を図り、園児の健やかな成長を支える。	①保護者対象の講座を開催する。 ②梅の実会や保護者によるサークル活動、保育参加活動などの保護者活動を支援する。	A	①6月に保護者対象の白梅講座として「幼稚園から小学校へ：『小1の壁』って本当にあるの？生活と学習のリアル」を、公立小学校元校長を講師に開催した。20名の参加があった。10月に子どもと親を考える講座として「幼児期からの性教育を考える」を開催し、年長児と保護者17名が参加し、身体や性についての理解を深めた。 ②梅の実会(PTA)の活動や、サークル展の開催を含めた保護者によるサークル活動、うめのみまつりやこままわし、ふだんぎコンサートなど保育と連動する保護者活動を支援した。
(4) 各種支援における大学・短大との連携・協力の強化	・教員研修や保護者支援、発達・子育ての相談・支援等、よりよい教育を支える諸活動について、連携と協力を図る。	①大学の発達・教育相談室や専門領域の教員と連携して、子育てや発達の相談に対応する。	B	①大学の発達・教育相談室と連携して、子育てや発達の相談に対応した。

4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 未就園児保育(2 歳児クラス)の実質化と充実	・未就園児クラス『びよびよ』での保育を充実させ、保護者による本園の保育への理解を深化させ、入園後の円滑な生活の実現を図る。	①未就園の 2 歳児クラスを変更し、5 月～3 月(8 月を除く)に満 2 歳 2 か月以上の幼児について随時入室可とし、満 3 歳児(4 年保育)や 3 歳児(3 年保育)の保育との接続を図る。 ②満 2 歳 2 か月～6 か月は週 1 または週 2 クラスを、満 2 歳 7 ヶ月以上は週 1～週 4 のクラスを開室し、内容の充実を図る。 ③自家用車による通園について 5 台まで可能とし、子育ての負担軽減に寄与すると共に、2 歳児クラス利用を促進する。 ④ 2 歳児クラスの保護者は幼稚園主催講座への参加を可能とするなど、子育て等に関する相談に随時対応する。	A	①未就園の 2 歳児クラス《びよびよ》を改変し、5 月～3 月(8 月を除く)に満 2 歳 2 か月以上の幼児について随時入室可とし、満 3 歳児(4 年保育)との接続を図った。年間で 52 家庭の利用があった。また、12 月～3 月まで東京都の「多様な他者との関わりの機会創出事業」を実施した。11 回開室して、13 家庭が利用した。2026 年度から実施される国の「こども誰でも通園制度」(小平市乳児等通園支援事業)の申請を行い、認可を得た。 ②満 2 歳 2 か月～6 か月は週 1 または週 2 クラスを、満 2 歳 7 か月以上は週 1～週 4 のクラスを開室し、内容の充実を図った。 ③自家用車による通園について 5 台まで可能とし、実際に実施日には 3 台または 4 台の利用があった。子育ての負担軽減に寄与すると共に、2 歳児クラス利用を促進した。 ④ 2 歳児クラスの保護者は幼稚園主催講座への参加を可能とした。子育て等に関する相談に本園教職員が随時対応している。
(2) 募集対策の強化	・園児募集の課題について、変化する諸状況や諸環境をふまえて明確化し、都度、対応を図る。 ・メディアの特性を活かして、募集広報を行う。	①未就園児対象の説明会については、従来の 3 歳児クラスの入園説明会のほか、満 3 歳児保育や 2 歳児クラスの説明会を開催し、それぞれに構成を工夫し、参加者の十分な理解を促し、疑問に答える。 ②入園説明会における資料提示を工夫し、SNS を活用して随時配信するなど、園への関心の継続やホームページの閲覧を誘う。 ③園庭開放やお話し会、あそぼう会等、未就園児対象の企画と連動して広報の強化を図るとともに、願書提出までに、これらの企画や 2 歳児クラス、随時の園見学のいずれかは利用するよう広報する。 ④園のパンフレットやチラシなどの紙媒体や、Web サイトの随時更新、SNS の随時配信、口コミなどを組み合わせて広報を行う。	A	① 4 月に満 3 歳児保育の入園説明会を実施した。3 歳児クラスの入園説明会は 7 月～10 月に 5 回実施した。在園児の保護者に登壇していただくなど、本園の実際について参加者の十分な理解を促し、疑問に答えた。 ②入園説明会における資料提示を工夫し、「白梅ならではの」をキーワードに保育、子育て支援、大学との連携を本園の特徴を説明した。公式 LINE アカウントやInstagram 等 SNS を活用して随時情報を配信し、園への関心の継続やホームページの閲覧を誘っている。 ③園庭開放やお話し会、あそぼう会等、未就園児対象の企画と連動して広報の強化を図った。満 3 歳児保育含めて願書提出までに、これらの企画や 2 歳児クラス、随時の園見学のいずれかは利用するよう広報し、満 3 歳児クラスの全応募者から協力を得た。 ④園のパンフレットやチラシなどの紙媒体や、Web サイトの随時更新、SNS の随時配信、口コミなどを組み合わせて広報を行った。

5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)ネットワーク環境の活用による広報活動の充実	(該当なし)	①ホームページや SNS（公式 LINE アカウント、Instagram、ブログ）を活用し、随時の情報配信を園内外に行い、未就園児には幼稚園の様子や未就園児企画などのお知らせを行う。 ②さくらシステムや SNS 等を利用して、在園児の保護者等に幼稚園の現況や各種企画等についてお知らせを行う。	B	①ホームページや SNS（公式 LINE アカウント、Instagram、ブログ）を活用し、随時の情報配信を園内外に行い、未就園児には幼稚園の様子や未就園児企画などのお知らせを行った。Instagram は 71 本の配信を行い、300 名以上のフォロワーを得た。LINE 公式アカウントでは 9 本、ブログは 53 本の配信を行った。 ②さくらシステムや SNS 等を利用して、在園児の保護者等に幼稚園の現況や各種企画等についてお知らせを行った。また、天候の変化に応じて送迎方法等の変更について配信した。緊急時対応については保護者から高い評価を得た。
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1)未就園児を対象とする各種企画の実施	・地域における未就園児の親子を対象に園庭開放や諸企画を開催し、子育て支援に資する。	①2 歳児クラスについて、満 3 歳児保育の導入に伴い見直しを行い、満 2 歳 2 か月の幼児の随時の入室を可能とするなどして、未就園児保育を実施する。 ②園庭開放やおはなし会、あそぼう会、体験入園などの未就園児対象の企画を実施する。	A	①2 歳児クラスについて、満 3 歳児保育の導入に伴い見直しを行い、満 2 歳 2 ヶ月の幼児の随時の入室を可能とした。2 歳 6 か月までは週 1 または週 2 回の利用とし、2 歳 7 か月以上は週 3 回以上の利用を可能とした。年間 95 回、開室した。 ②園庭開放は 20 回実施し延べ 167 組 (334 名)の親子が、おはなし会は 4 回開催し 48 組の親子が、あそぼう会は 5 回開催し 60 組の親子が参加した。企画を通して地域の子育て支援の場を提供し、本園の保育について理解を促進した。
(4)地域や近隣諸機関との交流の推進	・教育や研究、各種支援等において、自治体や諸施設、教育機関と連携・協力を行う。	①小平第一小学校と幼小一体的なカリキュラムの研究開発を行うほか、地域や近隣の諸施設、諸機関と連携・協力を行い、園児の活動を充実させ、健やかな生活の安定を図る。	A	①小平第一小学校と幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」の研究開発（第 3 年次）を行った。本格実施の 2 年目として、小平の糧うどんづくりで 5 歳児と 2 年生が交流するなど、工夫した実践を展開した。幼小合同研究会や教員講習会、運営指導委員会、研究開発委員会等を通して、組織的に研究を推進した。子どもの発達や子育てについて、関係諸機関と連携・協力を行い、健やかな生活の安定を図った。

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 卒園生との交流	(該当なし)	①同窓会を開催し、卒園生や保護者 OB と交流を行い、園の課題を認識し、園の教育への支援を得る。 ②保育における特定の活動において、技術のある卒園生や保護者 OB に協力をいただく。	A	①同窓会を 9 月に開催し、卒園した小学 1 年生 52 名、同 2 年生 34 名、同 3 年生 38 名の計 124 名生が来園し交流を行った。年長児と同窓生がコメント交流を行い、小学校についてイメージの共有を図った。同伴した保護者 OB 同士の交流の場を提供した。 ②年長児のみそづくりの指導や、こま回しの実演、保護者による演劇やコンサートにおいて、技術のある卒園生や保護者 OB に協力をいただいた。
9. 働き方・仕事の仕方の見直し				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 業務の再編と相互連携	・各種研修や諸会議を通し、保育者相互の意見交流を活発化させ、学びあう園組織を構築する。	①園の業務の透明化を行い、それぞれの業務の相互理解を深め、教職員間の連携協力を推進する。	B	①園の業務の明確化と透明化を行い、それぞれの業務の相互理解を深め、教職員間の連携協力を推進した。
10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 園史や教育・研究実績、大学附属園としての機能をふまえたブランディング	・園史関係資料の保存・管理や、アーカイブ化、それらの資料を活用した研究を推進する。 ・大学附属園としての実績を含め、教育・研究・組織運営に関する年報を作成する。 ・ブランディングに関する検討を行い、園の将来像を見定める。	①大学・短大の教員、子ども学研究所と連携し、園史関係資料の収集を進め、園内の保存資料の整理とアーカイブ化を進める。 ②年報を作成し、教育・研究・組織運営の実績を取りまとめる。 ③ブランディングについて「子ども自ら遊びを拓き、探究と協働を深める「白梅の保育」、「家庭のライフスタイルに応じて「選べる」「白梅の子育て支援」、「大学との連携」を柱として進める。	B	①大学図書館のリサイクル本から、園史関係資料の収集を行った。貴重な資料のほか、版の異なる資料を収集することができた。 ②ブランディングについて、三つの「白梅ならではの」を柱として進めた。すなわち「幼児期にこそ経験させたい『白梅の保育』『家庭のライフスタイルに応じて「選べる」『白梅の子育て支援』『大学の教育・研究環境を利用できる『大学との連携』」を柱として広報等で示した。

14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 教員組織の機能強化	・ 各種研修や諸会議を通し、保育者相互の意見交流を活性化させ、学びあう園組織を構築する。	①主幹教諭と統括主任を配置し、園務の整理の円滑化を強化するとともに、各分掌に主任を配置し、担当業務を明確化し、相互の連絡・報告を緊密に行い、意思決定の迅速化を図り、透明性を高める。	B	①今年度から主幹教諭と統括主任を配置し、ガバナンスを強化した。園務を整理し担当業務を明確化し、各分掌に主任を配置し責任の明確化を図った。分掌や学年等、相互の連絡・報告を緊密に行い、意思決定の迅速化を図った。
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) 各種施設の改修	・ 遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。	①安全で公衆衛生に留意した環境整備として、旧園舎のトイレ改修と各保育室の照明の LED 化（ガラス管の入替）、サッシの滑りと戸当りの改善、旧園舎の昇降口床面の塗布、未就園児・預かり保育室の床面シートの入替を進める。	C	①安全で公衆衛生に留意した環境整備として、旧園舎の昇降口床面のシートの接着については完了した。満 3 歳児の保育室については、教員が塗装や床面の整備等を行った。照明の LED 化（ガラス管の入替）については、預かり保育・未就園児保育室については実施することができたが、クラスの保育室については、進められなかった。長年の懸案である、旧園舎のトイレ改修は本年度も実施できず、次年度の実施となった。サッシの滑りと戸当りは改善に至らなかった。未就園児・預かり保育室の床面シートの入替については、照明入れ替えを優先し、費用が不足し、来年度に実施することになった。
16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成目標	年間評価	2025 年度(中期計画 2 年目)の達成状況(総括)
(1) ICT システムの十全な活用	・ 遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。	①スマートフォンを事務室や各保育室等に順次配置し、WiFi による通信を可能とし、保育中の子どもや安全に関する情報共有や保育の記録、事務室と保育室間等の連絡のために活用する。	C	①Wi-Fi 利用のスマートフォンの今年度の配置を見送った。理由の一つとして、園内の連絡や非常事態の対応に適切か、検討する必要が認められた。

[IV]財務の概要

(1) 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

① 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:百万円)

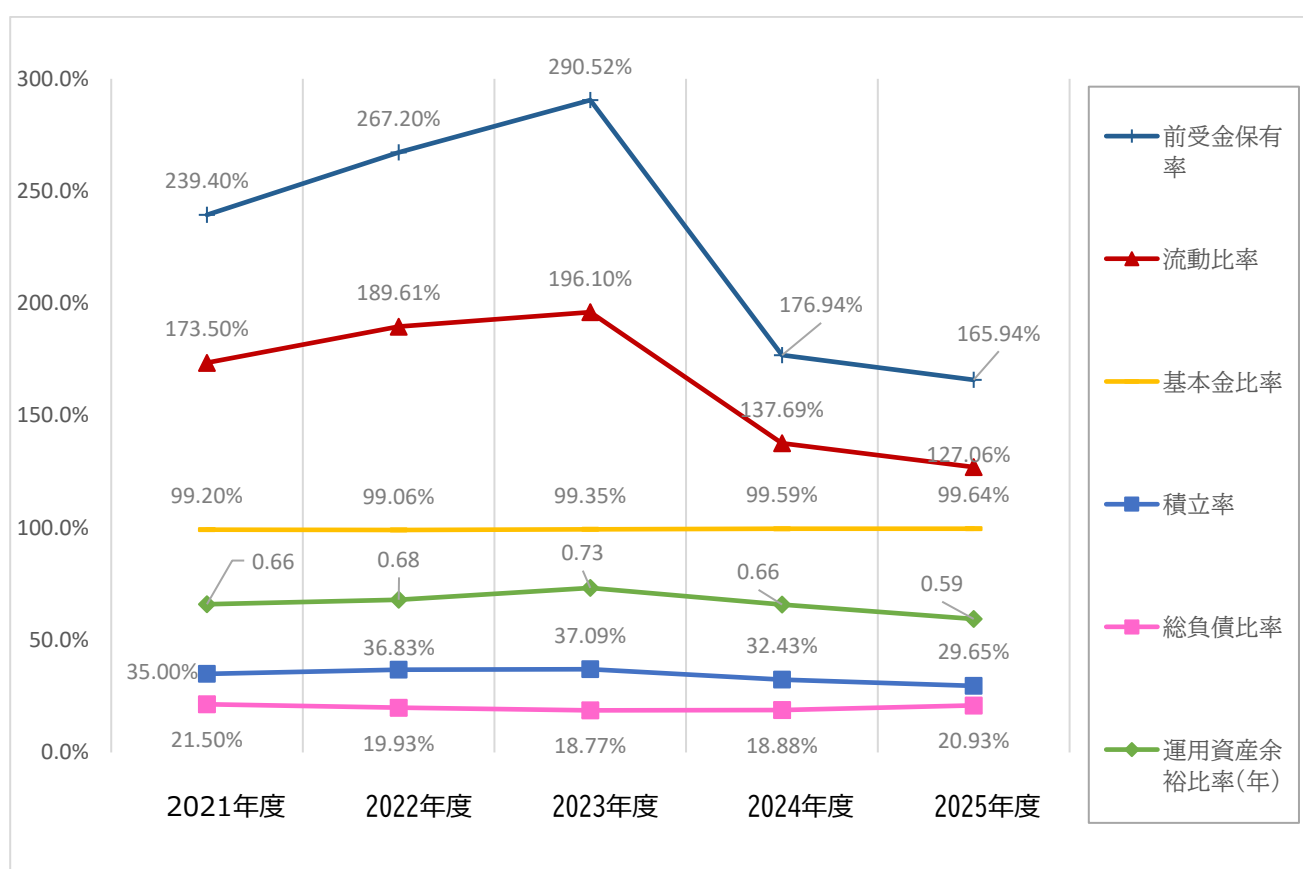
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
固定資産	5,469	5,576	5,664	5,842	5,611
流動資産	1,168	1,130	989	657	698
資産の部合計	6,638	6,705	6,652	6,499	6,309
固定負債	756	741	745	750	771
流動負債	673	596	504	477	549
負債の部合計	1,428	1,336	1,249	1,227	1,321
基本金	9,611	9,621	9,820	10,101	10,100
繰越収支差額	△ 4,402	△ 4,253	△ 4,417	△ 4,829	△ 5,112
純資産の部合計	5,210	5,368	5,403	5,272	4,988
負債及び純資産の部合計	6,638	6,705	6,652	6,499	6,309

② 財務比率の経年比較

(単位:%) ※運用資産余裕比率を除く

比率項目	算出基準	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	0.66年	0.68年	0.73年	0.66年	0.59年
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	173.50	189.61	196.10	137.69	127.06
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	21.50	19.93	18.77	18.88	20.93
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	239.40	267.20	290.52	176.94	165.94
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.20	99.06	99.35	99.59	99.64
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額(※)}}$	35.00	36.83	37.09	32.43	29.65

(※)要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋第2号基本金＋第3号基本金



(2) 事業活動収支計算書関係

① 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

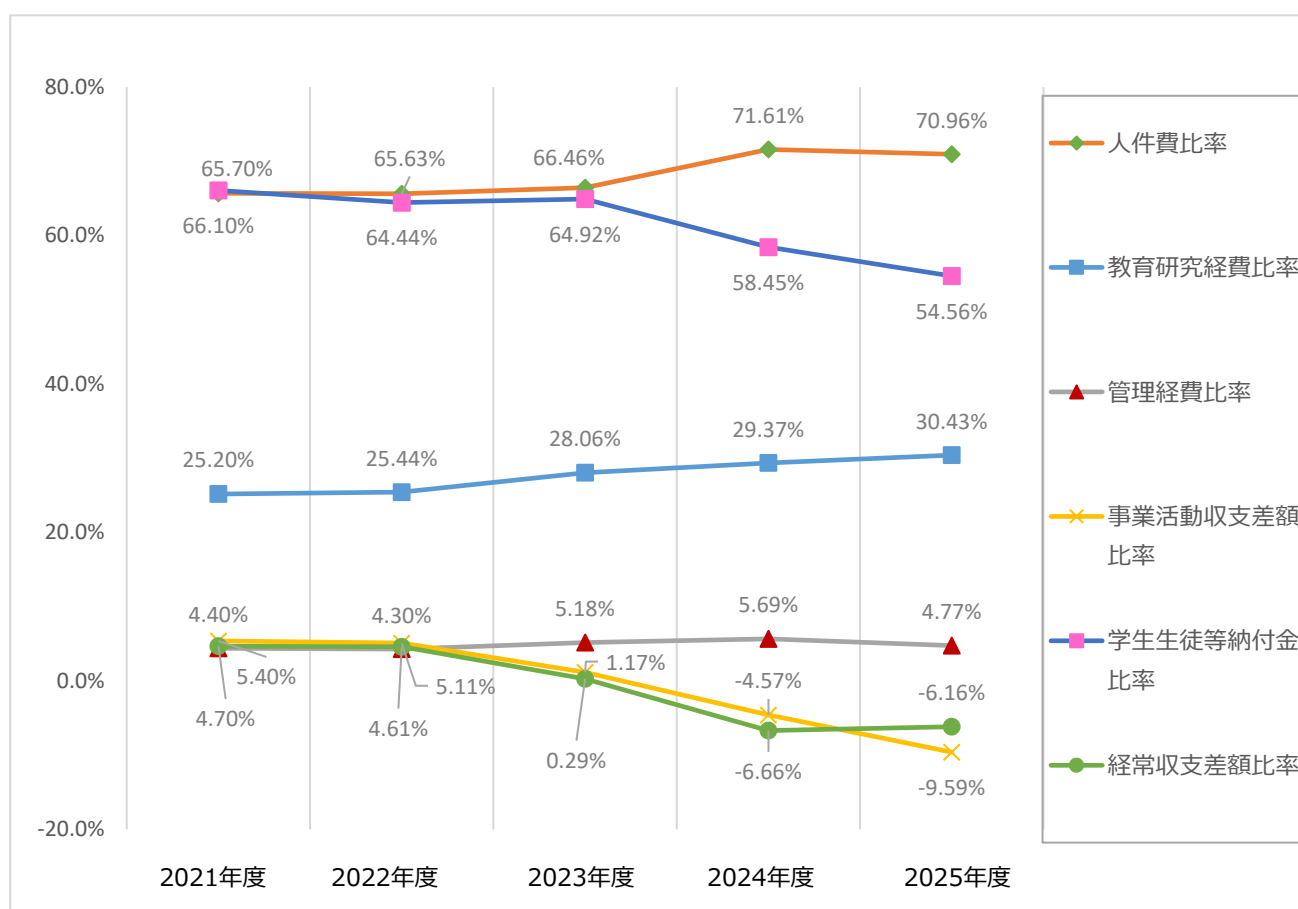
科 目		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
教育活動収支	教育活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,024	1,995	1,926	1,641	1,591
	手数料	35	30	26	25	23
	寄付金	9	9	31	15	8
	経常費等補助金	902	940	918	1,031	1,149
	付随事業収入	16	13	15	14	14
	雑収入	72	107	48	78	125
	教育活動収入計	3,058	3,094	2,964	2,803	2,911
	教育活動支出の部					
	人件費	2,010	2,032	1,972	2,010	2,070
	教育研究経費	771	788	832	824	888
	管理経費	134	133	154	160	139
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	2,915	2,953	2,958	2,994	3,097
	教育活動収支差額	143	141	5	△ 191	△ 186
教育活動外収支	教育活動外収入の部					
	受取利息・配当金	2	2	3	4	6
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	2	2	3	4	6
	教育活動外支出の部					
	借入金等利息	1	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	1	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	1	2	3	4	6
	経常収支差額	145	143	9	△ 187	△ 180
特別収支	特別収入の部					
	資産売却差額	5	0	0	0	0
	その他の特別収入	21	18	36	62	42
	特別収入計	25	18	36	62	42
	特別支出の部					
	資産処分差額	3	2	9	6	58
	その他の特別支出	0	0	0	0	88
	特別支出計	3	2	9	6	147
	特別収支差額	22	17	27	56	△ 104
	基本金組入前当年度収支差額	167	159	35	△ 131	△ 284

基本金組入額合計	△ 17	△ 9	△ 199	△ 282	0
当年度収支差額	150	150	△ 164	△ 413	△ 284
前年度繰越収支差額	△ 4,553	△ 4,402	△ 4,253	△ 4,417	△ 4,829
基本金取崩額	0	0	0	0	1
翌年度繰越収支差額	△ 4,402	△ 4,254	△ 4,417	△ 4,829	△ 5,112
(参考)					
事業活動収入計	3,086	3,115	3,003	2,869	2,959
事業活動支出計	△ 2,919	△ 2,956	2,967	△ 3,000	△ 3,243

② 財務比率の経年比較

(単位:%)

比率名		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	65.70	65.63	66.46	71.61	70.96
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	25.20	25.44	28.06	29.37	30.43
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	4.40	4.30	5.18	5.69	4.77
事業活動収支 差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	5.40	5.11	1.17	△4.57	△9.59
学生生徒等 納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	66.10	64.44	64.92	58.45	54.56
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	4.70	4.61	0.29	△6.66	△6.16



(3) 資金収支計算書関係

① 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

収入の部	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
学生生徒等納付金収入	2,024	1,995	1,926	1,641	1,591
手数料収入	35	30	26	25	23
寄付金収入	10	11	63	66	19
補助金収入	921	955	918	1,034	1,179
資産売却収入	11	2	0	0	0
付随事業・収益事業収入	16	13	15	14	14
受取利息・配当金収入	2	3	3	4	6
雑収入	72	107	48	78	125
借入金等収入	1	0	0	0	0
前受金収入	428	362	300	309	296
その他の収入	717	654	743	583	475
資金収入調整勘定	△ 540	△ 543	△ 432	△ 368	△ 473
前年度繰越支払資金	916	1,025	967	872	546
収入の部合計	4,613	4,614	4,578	4,256	3,802

支出の部	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
人件費支出	1,996	2,025	1,949	2,000	2,067
教育研究費支出	577	593	639	629	688
管理経費支出	127	127	147	154	133
借入金等利息支出	1	0	0	0	0
借入金返済支出	23	22	23	19	5
施設関係支出	32	69	8	125	26
設備関係支出	49	38	60	155	84
資産運用支出	204	238	251	102	15
その他の支出	629	611	704	594	364
資金支出調整勘定	△ 49	△ 75	△ 76	△ 67	△ 72
翌年度繰越支払資金	1,025	967	872	546	491
支出の部合計	4,613	4,614	4,578	4,256	3,802

② 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

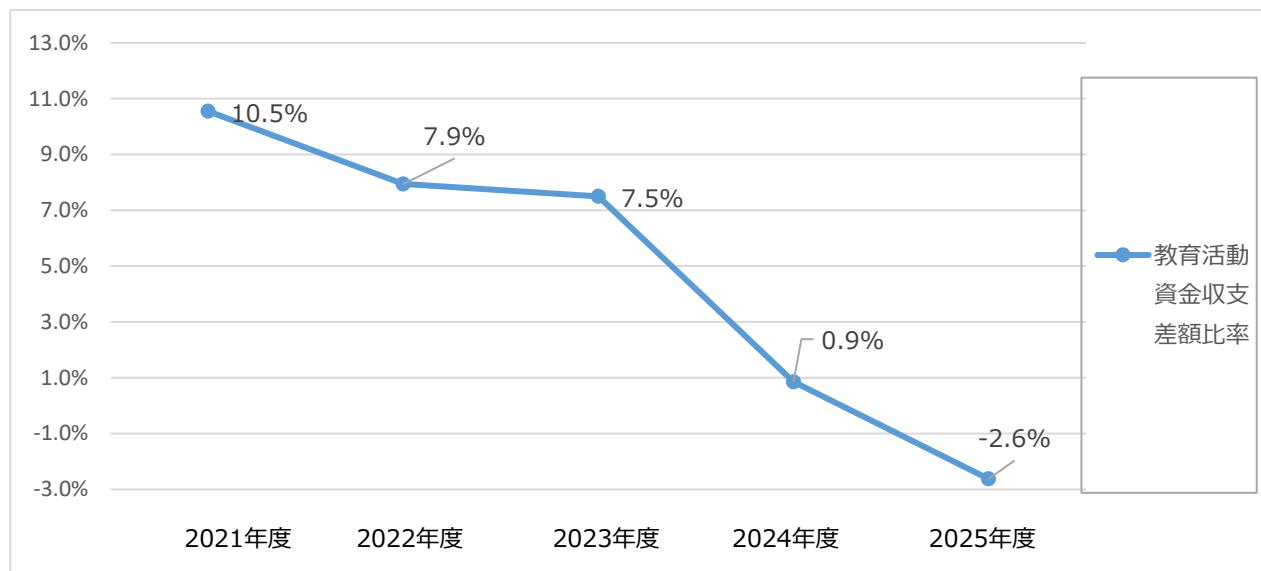
(単位:百万円)

科目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	3,058	3,094	2,964	2,803	2,911
教育活動資金支出計	2,700	2,745	2,736	2,783	2,888
差引	358	349	228	20	23
調整勘定等	△ 36	△ 104	△ 6	4	△ 99
教育活動資金収支差額	323	246	222	24	△ 76
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動収入計	48	46	49	54	131
施設整備等活動資金支出計	263	323	314	381	110
差引	△ 215	△ 277	△ 265	△ 327	21
調整勘定等	12	43	△ 11	△ 7	△ 3
施設整備等活動資金収支差額	△ 203	△ 235	△ 275	△ 334	19
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動 資金収支差額)	120	11	△ 53	△ 310	△ 58
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	627	536	615	518	323
その他の活動資金支出計	637	605	658	537	318
差引	△ 10	△ 69	△ 43	△ 19	5
調整勘定等	0	0	0	4	△ 2
その他の活動資金収支差額	△ 10	△ 69	△ 43	△ 16	3
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	110	△ 58	△ 96	△ 326	△ 55
前年度繰越支払資金	916	1,025	967	872	546
翌年度繰越支払資金	1,025	967	872	546	491

③ 財務比率の経年比較

(単位:%)

比率項目	算出	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	10.5	7.9	7.5	0.9	△2.6



(2) その他

(1) 資産運用の状況

(単位:百万円)

		貸借対照表 計上額	時価	差額
株式		34	125	91
特定資産	株式	12	16	4
	債権	50	49	△ 1
合計		46	141	95

(2) 学校債の状況

・該当なし

(3) 寄付金の状況

(単位:万円)

主な寄付金	金額	使用実績等
白梅学園未来基金	15	累計額:7,173 万円
白梅学園創立 80 周年記念事業募金	54	累計額:1億 2,096 万円
施設設備、教育研究用機器の整備・拡充	245	
その他特別寄付	650	第一大体育館へのエアコン設置 (白梅学園大学・白梅学園短期大学 学生会)
	500	高等学校の施設及び環境整備 (白梅学園高等学校同窓会)
	150	白梅祭・卒業祝賀会支援、教育環境の整備 (白梅学園大学・短期大学 後援会)
	158	清修ジオラマ活動支援 (クラウドファンディング、理事長 井原徹、学園関係者等)
その他	146	
現物寄付	166	図書・教育研究機器備品
寄付金合計	2,084	

(4) 補助金の状況

(単位:百万円)

主な補助金		金額	使用実績等
国庫補助金	私立大学経常費補助金	103	
	修学支援授業料等減免費補助金	154	
	高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金 (高等学校 DX 加速化推進事業)	10	H 棟(情報教室)・K 棟(総合特別教室等)のデジタル学習環境整備
	その他国庫補助金	6	
地方公共団体補助金	私立学校経常費補助金(東京都)	517	
	私立高等学校等授業料軽減助成金(東京都)	189	
	私立高等学校新入生端末整備費助成金 (東京都私学財団)	18	
	私立高等学校等 ICT 教育設備整備推進事業費補助金(東京都)	16	C・D・H 棟 電子黒板プロジェクト等 ICT 整備
	その他地方公共団体補助金	78	
施設型給付費		88	
補助金合計		1,179	

(5) 収益事業の状況

・該当事業なし

(6) 主な施設設備・ICT 支出

(単位:万円)

部門	施設設備・ICT	予算	実績
法人	A 棟 B 棟外壁塗装	予算外	5,700
	第二大体育館屋上防水工事	予算外	430
	H 棟 K 棟および第二大体育館 トイレ改修	予算外	2,600
大学・短大	図書館コモンス化工事	予算外	1,460
白高	電子黒板等 ICT 設備更新	4,000	3,900
清修	清修中学生への 1 人 1 台貸与 PC 整備	1,300	1,300
	ガス空調機入替(リース)	400	400
白高・清修高共通	H 棟(情報教室)・K 棟(総合特別教室等)のデジタル学習環境整備	予算外	1,300
合計		5,700	8,360

(7) 大短新棟及び既存棟修繕のための資金推移

年度	繰入額	取崩額	年度末残高	備考
2017 年度	1 億円	-	1億円	第 2 号基本金へ繰入
2018 年度	1 億円	-	2億円	第 2 号基本金へ繰入
2019 年度	1,400 万円	-	2 億 1,400 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2020 年度	1 億 2,300 万円	-	3 億 3,700 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2021 年度	1 億 7,700 万円	2,800 万円	4 億 8,600 万円	減価償却引当特定資産へ繰入 減価償却引当特定資産 取崩
2022 年度	2 億 1,200 万円	1,700 万円	6 億 8,100 万円	減価償却引当特定資産へ繰入 減価償却引当特定資産 取崩
2023 年度	1 億 5,000 万円 9,400万円	-	9 億 2,500 万円	2 号基本金へ繰入 減価償却引当特定資産へ繰入
2024 年度	2 億 7,000 円	1 億 6,900 万円	10 億 2,600 万円	減価償却引当特定資産へ繰入 (差引 1 億 100 万円を繰入)
2025 年度	-	9,100 万円	9 億 3,600 万円	減価償却引当特定資産 取崩

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

(1) 収支状況

① 事業活動収支

事業活動の中心である教育活動収支差額が、1億8,600万円の支出超過（前年度比500万円の改善）となった。

2023年度以降の入学・入園者数の減少に伴う収入減の影響と、高校の教室ICT設備の大規模更新や、A棟・B棟の長寿命化のための外壁塗装工事及び屋上防水工事、中学・高校の校舎及び第二大体育館におけるトイレ改修、大学・短期大学図書館のコモンズ化などを実施したことにより、大幅な支出超過となった。また、学校法人会計基準の改正により、2025年度から賞与引当金8,800万円をその他の特別支出に計上したことにより、基本金組入前当年度収支差額は2億8,400万円の支出超過（前年度比▲1億5,300万円）となった。

② 資金収支

資金収入は32億5,600万円、資金支出は33億1,100万円で単年度の資金収支差額は5,500万円の支出超過（支払資金の減少）となった。

活動区分別にみると、教育活動資金収支差額が7,600万円の支出超過となった。教育活動資金収支においては、過去5年で初めての支出超過である。教育活動収入は2025年度に比べて約1億円増加したが、予定外の退職者への退職金支払いにより人件費支出が大幅に増加したことが大きな要因である。

施設整備等活動では、減価償却引当特定資産を取り崩し、中学・高校の校舎及び第二大体育館におけるトイレ改修、大学短期大学図書館のコモンズ化などを実施した。一方で、財政状況に鑑み、減価償却引当特定資産への組入（将来の施設設備更新への積立）は行わなかった。

(2) 今後の方針・対応方策

2025年度の予算は、入学・入園者数の見込みに基づく当年度の収入の範囲内で編成し、活動区分資金収支予算書における支払資金の増減額をマイナスとしない方針とした。しかしながら、入学・入園者数の減少に伴う収入減、予定外の退職者への退職金支払いや予算外の施設改修工事等による支出増のため、2025年度の収支は支出超過となり、支払資金が減少した。

財政再建策による人件費の見直しとして2022年度から賞与1.5か月の見直しを継続して実施している。さらに、翌2026年度予算編成においては、各部門経費の4%削減、退職教職員の後任不補充、役員の賞与の削減（任意）などの措置を行って支出削減を図った。今後も厳しい財政状況が続く見通しであり、その他の諸手当、研究・研修費等について、各部門と調整を行いながら2026年度中に見直しを行い、さらなる支出削減に取り組むこととしている。

2026年度以降は、全部門で入学・入園者数の回復を早急に図っていくとともに、実際の入学者数を踏まえ、必要な場合には更なる支出の削減を検討・実施する。

[V]学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

1. 関係する決議の概要

学校法人白梅学園の業務の適正を確保するための体制の整備に関し、「白梅学園 内部統制システム整備の基本方針」を2025年3月24日理事会において決議した。

2. 体制整備及び運用状況の概要

(1) 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

下記の規程等に基づき、運用している。

- ・学校法人白梅学園文書取扱規程（1997年4月1日施行）

(2) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

理事長を最高管理責任者としてリスク管理体制を整備し、事業活動に関するリスクについては、法令及び下記の規程等に基づき、職務執行部署が自律的に管理することを基本としている。

- ・個人情報保護に関する基本方針（2022年10月1日策定）
- ・個人情報保護規程（2022年10月1日施行）
- ・消防計画
- ・防災マニュアル

(3) 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

下記の規程等に基づき、運用している。

- ・学校法人白梅学園寄附行為（2025年4月1日施行）
- ・学校法人白梅学園常勤理事会規程
- ・学校法人白梅学園稟議・決裁規程（2004年11月16日施行）

(4) 職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

理事長を最高管理責任者としてコンプライアンス管理体制を整備し、下記の規程等に基づき、運用している。

- ・学校法人白梅学園人権侵害の防止に関する規則（2023年4月1日施行）
- ・学校法人白梅学園公益通報規程（2010年4月1日施行）

(5) 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制等

監事は寄附行為（2025年4月1日施行）等に基づき、理事会、評議員会等の重要会議への出席並びに重要書類の閲覧、審査及び質問等を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行っている。

[VI] 役員等の概要

1. 役員等の概要

(1) 役員等の構成

定数／現員 理事 10～14 人／14 人、監事 2 人／2 人

(基準日：2026 年 3 月 31 日)

寄附行為 選任条項	区 分 (※ 外部理事)	氏 名	常勤／非常勤 (※※ 非業務執行 役員)	就 任 日
14-2	理 事 長(※)	井原 徹	常 勤	2019 年 1 月 20 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任) 2025 年 6 月 23 日 理事長再任
7-1-1	理 事 (大学・短期大学 学長)	小玉 重夫	常 勤	2024 年 4 月 1 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-1	理 事 (大学子ども学部 学部長)	倉澤 壽之	常 勤	2024 年 4 月 1 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-1	理 事 (高等学校校長)	武内 彰	常 勤	2021 年 4 月 1 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-1	理 事 (中学校校長)	南 和男	常 勤	2024 年 4 月 1 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-1	理 事 (幼稚園園長)	本山 方子	常 勤	2022 年 1 月 20 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-1	理 事 (法人事務局長)	舟橋 徹	常 勤	2023 年 7 月 1 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-2	理 事(※)	長倉 澄	非常勤(※※)	2007 年 11 月 13 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-2	理 事(※)	昼間 守仁	非常勤(※※)	2022 年 1 月 20 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-2	理 事(※)	西井 泰彦	非常勤(※※)	2016 年 1 月 20 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-2	理 事(※)	細江 卓朗	非常勤(※※)	2016 年 1 月 20 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-2	理 事(※)	牧野 光昭	非常勤(※※)	2019 年 7 月 1 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-2	理 事(※)	樋口 秋夫	非常勤(※※)	2022 年 1 月 20 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
7-1-2	理 事(※)	増田 昭一	非常勤(※※)	2016 年 1 月 20 日 理事就任 (2025 年 6 月 23 日 理事重任)
22-1	監 事	金子 武弘	非常勤(※※)	2012 年 3 月 13 日 監事就任 (2025 年 6 月 23 日 監事重任)
22-1	監 事	志村 望	非常勤(※※)	2025 年 6 月 23 日 監事就任

※2025 年 6 月 23 日：2025 年度定時評議員会開催の日

(2) 2026 年 3 月 31 日までの役員の異動状況

①理事の任期満了に伴い、下記の変更があった。

新				旧			
寄附行為 選任条項	氏 名	変更	日付	寄附行為 選任条項	氏 名	変更	日付
—	—	—	—	(旧)6-1-2	兼清 信生	退任	2025年6月23日

※井原 徹は理事長を重任（条項変更）

※小玉 重夫、倉澤 壽之、武内 彰、南 和男、本山 方子、舟橋 徹、井原 徹、長倉 澄、昼間 守仁、西井 泰彦、細江 卓朗、牧野 光昭、樋口 秋夫、増田 昭一は重任（条項変更）

②監事の任期満了に伴い、下記の変更があった。

新				旧			
寄附行為 選任条項	氏 名	変更	日付	寄附行為 選任条項	氏 名	変更	日付
22-1	志村 望	就任	2025年6月23日	(旧)7-1	池田 勝	退任	2025年6月23日

※金子 武弘は重任（条項変更）

(3) 責任限定契約、役員賠償責任保険契約の状況

①私立学校法及び寄附行為第 60 条に基づき、対象となる非業務執行役員と責任限定契約（任期中有効、再任後も効力を有する）を締結した。2026 年 3 月 31 日現在の対象役員は 9 名。

※学校法人白梅学園寄附行為（2025 年 4 月 1 日施行）より抜粋。

（責任限定契約）

第 60 条 理事（理事長、代表業務執行理事、業務執行理事及びこの法人の職員である理事を除く。以下この条において「非業務執行理事」という。）、監事又は会計監査人が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事、監事又は会計監査人が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金 60 万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法第 92 条の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事、監事又は会計監査人と締結することができる。

②私立学校法に基づき、2020 年 4 月より下記の役員賠償責任保険に加入した（2020 年 3 月 16 日理事会報告）。2025 年 1 月 27 日理事会の承認を得て、2025 年度も契約を継続した。

加入保険：私大協役員賠償責任保険制度（D&O マネジメントパッケージ）

（経営責任総合保障特約条項・特定危険負担保特約条項・会社有価証券賠償責任等不担保特約条項・役員定義修正特約条項・追加保険料の払込猶予に関する特約条項付帯 会社役員賠償責任保険）

契約期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 4 月 1 日

補償対象(被保険者)：本学園及び本学園役員個人

年間保険料：266,000 円

保険期間中総支払限度額：10 億円

2. 理事選任機関の概要

私立学校法及び寄附行為第6条に基づき、本学の理事選任機関として「理事・評議員選任機関（以下、選任機関）」を置く。選任機関は、理事会において選任された理事5名・評議員6名の11名で構成し、この法人の理事及び評議員を選任する。

3. 評議員の概要

(1) 評議員の構成

定数／現員 評議員 21～22 人／22 人(基準日：2026 年 3 月 31 日)

寄附行為 選任条項	区 分	氏 名	就 任 日
32-1-1	職員で選任機関において選任した者（大学教員）	高田 文子	2024 年 4 月 1 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-1	職員で選任機関において選任した者（大学教員）	福丸 由佳	2024 年 4 月 1 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-1	職員で選任機関において選任した者（大学教員）	師岡 章	2025 年 6 月 23 日 就任
32-1-1	職員で選任機関において選任した者（高校教員）	兼清 信生	2015 年 4 月 1 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-1	職員で選任機関において選任した者（中学校・一貫部教員）	藤井 三郎	2025 年 6 月 23 日 就任
32-1-1	職員で選任機関において選任した者（幼稚園教員）	本橋 幸子	2025 年 6 月 23 日 就任
32-1-1	職員で選任機関において選任した者（事務職員）	昼間 史	2019 年 1 月 8 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-2	卒業生で 25 歳以上のものから職員で選任機関において選任した者	定時 知子	2025 年 6 月 23 日 就任
32-1-2	卒業生で 25 歳以上のものから職員で選任機関において選任した者	日景 高明	2024 年 6 月 24 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-2	卒業生で 25 歳以上のものから職員で選任機関において選任した者	遠藤 源太郎	2016 年 1 月 8 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-2	卒業生で 25 歳以上のものから職員で選任機関において選任した者	町田 晴美	2013 年 1 月 8 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-2	卒業生で 25 歳以上のものから職員で選任機関において選任した者	大迫 和子	2019 年 1 月 8 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-2	卒業生で 25 歳以上のものから職員で選任機関において選任した者	山口 洋子	2019 年 1 月 8 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-3	学識経験者のうちから、選任機関において選任した者	白川 恭子	2022 年 7 月 25 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-3	学識経験者のうちから、選任機関において選任した者	中島 百合子	2002 年 9 月 18 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-3	学識経験者のうちから、選任機関において選任した者	長 明美	2019 年 1 月 8 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-3	学識経験者のうちから、選任機関において選任した者	井関 浩樹	2022 年 1 月 9 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-3	学識経験者のうちから、選任機関において選任した者	木村 修三	2022 年 1 月 9 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)
32-1-3	学識経験者のうちから、選任機関において選任した者	根本 和彦	2022 年 1 月 9 日 就任 (2025 年 6 月 23 日 重任)

32-1-3	学識経験者のうちから、選任機関において選任した者	田原 三保子	2022年1月9日 就任 (2025年6月23日 重任)
32-1-3	学識経験者のうちから、選任機関において選任した者	山路 憲夫	2022年1月9日 就任 (2025年6月23日 重任)
32-1-3	学識経験者のうちから、選任機関において選任した者	須藤 勉	2022年1月9日 就任 (2025年6月23日 重任)

(2) 2026年3月31日までの評議員の異動状況

①評議員の任期満了に伴い、下記の変更があった。

新				旧			
寄附行為 選任条項	氏 名	変更	日付	寄附行為 選任条項	氏 名	変更	日付
—	—	—	—	23-1-1	小玉 重夫	退任	2025年6月23日
—	—	—	—	23-1-1	倉澤 壽之	退任	2025年6月23日
—	—	—	—	23-1-1	武内 彰	退任	2025年6月23日
—	—	—	—	23-1-1	南 和男	退任	2025年6月23日
—	—	—	—	23-1-1	本山 方子	退任	2025年6月23日
—	—	—	—	23-1-1	舟橋 徹	退任	2025年6月23日
—	—	—	—	23-1-2	安形 元伸	退任	2025年6月23日
—	—	—	—	23-1-2	須川 公央	退任	2025年6月23日
—	—	—	—	23-1-2	鈴木 邦男	退任	2025年6月23日
—	—	—	—	23-1-2	細井 俊克	退任	2025年6月23日
—	—	—	—	23-1-2	仙波 良太郎	退任	2025年6月23日
32-1-1	師岡 章	就任	2025年6月23日	—	—	—	—
32-1-1	藤井 三郎	就任	2025年6月23日	—	—	—	—
32-1-1	本橋 幸子	就任	2025年6月23日	—	—	—	—
32-1-2	定時 知子	就任	2025年6月23日	23-1-3	増田 昭一	退任	2025年6月23日
—	—	—	—	23-1-4	樋口 秋夫	退任	2025年6月23日

※高田 文子、福丸 由佳、兼清 信生、昼間 史、日景 高明、遠藤 源太郎、町田 晴美、大迫 和子、山口 洋子、白川 恭子、中島 百合子、長 明美、井関 浩樹、木村 修三、根本 和彦、田原 三保子、山路 憲夫、須藤 勉は評議員を重任（条項変更）。

4. 会計監査人の概要

(1) 会計監査人の構成

定数 1人(基準日：2025年3月31日)

寄附行為 選任条項	区 分	氏 名	就 任 日
50	会計監査人	良公監査法人(監査法人)	2025年6月23日 就任

(2) 責任限定契約、役員賠償責任保険契約の状況

学園との責任限定契約の締結及び役員賠償責任保険の契約は行っていない。

その他の資料

1. 2025 年度理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会・評議員会

(2025年度開催回数 理事会10回、評議員会 5 回)

理事会	評議員会
① 2025年 5月12日(月)	① 2025年 5月26日(月)
② 5月26日(月)	② 6月23日(月)※
③ 6月23日(月)	③ 11月17日(月)
④ 7月28日(月)	④ 2026年 1月26日(月)
⑤ 9月29日(月)	⑤ 3月23日(月)
⑥ 10月27日(月)	※定時評議員会
⑦ 11月17日(月)	
⑧ 2026年 1月26日(月)	
⑨ 2月16日(月)	
⑩ 3月23日(月)	

(2) 常勤理事会

(2025年度開催回数 常勤理事会14回)

常勤理事会	
① 2025年 4月7日(月)	⑧ 10月6日(月)
② 4月21日(月)	⑨ 11月4日(火)
③ 5月12日(月)	⑩ 12月1日(月)
④ 6月2日(月)	⑪ 12月15日(月)
⑤ 7月14日(月)	⑫ 2026年 1月13日(火)
⑥ 8月4日(月)	⑬ 2月2日(月)
⑦ 9月8日(月)	⑭ 3月2日(月)

2. 2025 年度進路状況

(1) 白梅学園大学・短期大学

【大学子ども学部子ども学科】

学科	卒業 予定 者数	希望 進路	就 職											
			種別	希望者	決定者数				内定・ 決定率	内定・ 決定率 ※	前年度 同月 内定率			
		無期雇用 正規採用			有期雇用 非正規	一時的	G=C/B*100	G=(D+E)/B *100						
	A			B	C=D+E+F	D	E	F	G=C/B*100	G=(D+E)/B *100				
子ども 学科	140	就 職	公務	行政・一般職	1	1	1		100.0	100.0	—			
				福祉職	4	4	4		100.0	100.0	100.0			
				小計	5	5	5	0	0	100.0	100.0	100.0		
			保・幼	公立保育園	30	30	30			100.0	100.0	100.0		
				私立保育園	39	39	37	0	2	100.0	100.0	100.0		
				公立幼稚園・こども園	1	1	0	0	1	100.0	100.0	100.0		
				私立幼稚園	17	17	17			100.0	100.0	100.0		
				私立認定こども園	8	8	8			100.0	100.0	100.0		
				小計	95	95	92	0	3	100.0	100.0	100.0		
			施設	公立施設	4	4	4			100.0	100.0	—		
				準公立施設	0	0	0			—	—	—		
				私立施設	16	16	15	1	0	100.0	100.0	100.0		
				小計	20	20	19	1	0	100.0	100.0	100.0		
			小学	公立小学校	12	12	12			100.0	100.0	100.0		
				公立特別支援学校	1	1	1			100.0	100.0	—		
				小計	13	13	13	0	0	100.0	100.0	100.0		
			企業	4	4	1	1	2	100.0	100.0	100.0			
			就職希望者 計				137	137	130	2	5	100.0	100.0	100.0
			進 学				1	1				100.0	100.0	100.0
			希望なし				2	2				100.0	100.0	100.0
			未定・未提出				0	0				—	—	—

【大学子ども学部発達臨床学科】

学科	卒業 予定 者数	希望 進路	就 職										
			種別	希望者	決定者数				内定・ 決定率	内定・ 決定率 ※	前年度 同月 内定率		
		無期雇用 正規採用			有期雇用 非正規	一時的							
	A			B	C=D+E+F	D	E	F	G=C/ B*100	G= (D+E)/ B *100			
発達臨床 学科	43	就 職	公務	行政・一般職	0	0	0			—	—	—	
				福祉職	0	0	0			—	—	100.0	
				小計		0	0	0	0	0	—	—	100.0
			保・幼	公立保育園	2	2	2			100.0	100.0	100.0	
				私立保育園	10	10	10			100.0	100.0	100.0	
				公立幼稚園・こども園	0	0	0			—	—	100.0	
				私立幼稚園	2	2	2			100.0	100.0	100.0	
				私立認定こども園	2	2	2			100.0	100.0	100.0	
				小計		16	16	16	0	0	100.0	100.0	100.0
			施設	公立施設	1	1	1			100.0	100.0	—	
				準公立施設	0	0	0			—	—	—	
				私立施設	9	9	7	2	0	100.0	100.0	100.0	
				小計		10	10	8	2	0	100.0	100.0	100.0
			小学	公立小学校	3	3	2	1	0	100.0	100.0	—	
				公立特別支援学校	7	6	6			85.7	85.7	100.0	
				小計		10	9	8	1	0	90.0	90.0	100.0
			企業		6	6	5	0	1	100.0	100.0	100.0	
			就職希望者 計		42	41	37	3	1	97.6	97.6	100.0	
			進 学			0	0				—	—	100.0
			希望なし			1	1				100.0	100.0	100.0
			未定・未提出			0	1				—	—	—

【大学子ども学部家族・地域支援学科】

学科	卒業 予定者数	希望 進路	就 職											
			種別	希望者	決定者数				内定・ 決定率	内定・ 決定率 ※	前年度 同月 内定率			
		無期雇用 正規採用			有期雇用 非正規	一時的								
	A			B	C=D+E+F	D	E	F	G=C/ B*100	G= (D+E)/ B *100				
家族・ 地域支援 学科	27	就 職	公務	行政・一般職	0	0	0			—	—	—		
				福祉職	1	1	1			100.0	100.0	100.0		
				小計	1	1	1	0	0	100.0	100.0	100.0		
			保	公立保育園	0	0	0			—	—	—		
				私立保育園	0	0	0			—	—	100.0		
				小計	0	0	0	0	0	—	—	100.0		
			施設	公立施設	0	0	0			—	—	100.0		
				準公立施設	0	0	0			—	—	100.0		
				私立施設	15	15	15			100.0	100.0	96.6		
				小計	15	15	15	0	0	100.0	100.0	96.8		
			小学	公立小学校	1	1	1			100.0	100.0	100.0		
			企業		6	6	6			100.0	100.0	100.0		
			就職希望者 計				23	23	23	0	0	100.0	100.0	97.5
			進 学				0	0				—	—	0.0
			希望なし				4	4				100.0	100.0	0.0
			未定・未提出				0	0				—	—	—

※子ども学部子ども心理学科、教育学科は2024年4月新設のため卒業生なし

【白梅学園短期大学】

学科	卒業 予定者 数	希望 進路	種別	希望者	決定者数				内定・ 決定率	内定・ 決定率※	前年度 同月 内定率
						無期雇用 正規採用	有期雇用 非正規	一時的			
	A			B	C=D+E+F	D	E	F	G=C/ B*100	H= (D+E) / B*100	
保育科	67	就 職	公務（行政・一般職）	0	0	0			—	—	—
			保・幼	公立保育園	2	2	2		100.0	100.0	100.0
				私立保育園	37	37	35	1	100.0	97.3	100.0
				公立幼稚園	0	0	0		—	—	—
				私立幼稚園	4	4	4		100.0	100.0	100.0
				私立認定こども園	3	3	3		100.0	100.0	100.0
				小計	46	46	44	1	100.0	97.8	100.0
			施設	公立施設	0	0	0		—	—	—
				私立施設	6	6	6		100.0	100.0	100.0
				小計	6	6	6	0	100.0	100.0	100.0
			企業等	1	1	1			100.0	100.0	100.0
			就職希望者 計		53	53	51	1	100.0	98.1	100.0
			進 学		11	11			100.0	0.0	92.3
			希望なし		3	3			100.0	0.0	—
			未定・未提出		0	0			—	—	—

(2) 白梅学園高等学校

【2025年度進路実績】

	指定校 推薦	公募制 推薦	総合型 選抜	一般 選抜	計	比率 (%)
四年制大学	85	14	60	45	204	87.9
他大学	69	14	55	45	183	(78.9)
白梅学園大学	16		5		21	(9.1)
子ども	12		4		16	(6.9)
家族・地域支援					0	(0)
子ども心理	4		1		5	(2.2)
教育					0	(0)
短期大学	6		2		8	3.4
他短大	2		1		3	(1.3)
白梅学園短期大学	4		1		5	(2.2)
専門学校	3	1	7	1	12	5.2
就職					1	0.4
浪人					5	2.2
家事従事・留学 等					2	0.9

※ () 内は過年度生

(3) 白梅学園清修中学校・中高一貫部

【2025年度進路実績】

	指定校	公募推薦	自己推薦	一般受験	総合型選 抜	計	比率 (%)
四年制大学	3	0	0	4	9	16	84.2
短期大学	0	0	0	0	0	0	0
専門学校	0	0	1	0	0	1	5.3
就職	0	0	0	0	0	0	0
浪人	2	0	0	0	0	2	10.5
留学等	0	0	0	0	0	0	0